

施工・メンテナンス・取扱上のご注意

P457 施工・メンテナンス

P483 取扱上のご注意

施工時の環境

施工の時に注意しなければならないことの一つに温度、湿度、通気、立地といった施工環境があります。これらの環境がもたらす材料の変化、環境に合わせた施工術をよく考慮した上で適切に施工することが大切です。

1.温度について

施工現場の温度が高いとき	●材料はやわらかくなり、下地になじみやすくなる。 ●接着剤は、粘度が低くなり、伸びやすく塗布しやすくなる。暑い夏などは、接着剤の乾燥時間が極端に短くなる。
施工現場の温度が低いとき	●材料は硬くなり、下地になじみにくくなる。 ●接着剤の粘度が高くなり、くし目の通りが悪くなり、伸びにくくなる。そのため塗布量が増えて乾燥しにくくなる。 →硬化時間が長くなる。塗りムラに注意。
温度変化があるとき	●朝晩で気温の変化があるときや冷暖房設備による室温変化、窓の大きな部屋で直射日光が照り付け、日中と夕方の室温変化があるときは次のことに注意する。 →材料は高温になると伸びて大きくなり、低温になると縮んで小さくなる。 - これは、寸法がくるって目地ずれ・突き上げの原因となる。

温度と施工	
●施工はできるだけ10℃以上で行うことが望ましい 工期の問題、設備などが整わないなどの問題もあるが、できるだけ施工環境温度は10℃以上にすること。藤タイルなど天然素材は、温度や湿気の影響を受けやすいので施工環境温度は、15℃以上が望ましい。	
●急激な温度変化は避ける 材料は急激な温度変化により伸びたり縮んだりし、寸法をくわせる。また接着剤は低温では硬化が遅れ、温度変化したときの材料の伸びを抑えられるだけの接着力が得られないので、膨れや突き上げの原因になる。したがってできるだけ施工中と養生期間中の温度を合わせて施工する。また直射日光や冷暖房による施工中の急激な温度変化にも注意する。特に店舗など窓の大きな場所は直射日光による輻射熱で日中と朝晩の温度変化が激しいので、カーテンやブラインドなどで遮光するなどして直射日光が床面に当たらないようにする。	
●使用する床材を施工する場所の温度になじませる 施工する場所の温度が適当であっても、材料自体が冷えきって縮んでいたり、逆に温まって伸びきっていたりすると、施工中や養生中に寸法変化を起こし膨れや突き上げの原因になる。そのため材料を施工前24時間は仮敷きをして巻き癖を取ったり、室温に馴染ませておくことが必要となる。	
●夏の暑いときには接着剤の取り扱いに注意する 温度が高くなると接着剤の硬化が速くなる。夏の高温下では極端に接着剤の硬化が速まり、オープンタイムや貼り付け可能時間が大変短くなるので、1回の接着剤の塗布面積には十分に注意する。エポキシ系の接着剤は2液の化学反応により硬化するが、高温下では極端に硬化が速くなり貼り付け可能時間が短くなるので、オープンタイム、貼り付け、圧着の時間には十分に配慮したうえで塗布面積を決定する必要がある。また2液反応型接着剤を容器に混練したまま放置しておくと、固まって使えなくなってしまうので使うだけの量を混練する。	

2.湿度について

湿度が高いとき	エマルジョン形・ラテックス形接着剤は、水分が蒸発することによって硬化、接着するので空気中の湿気が多いと蒸発を遅らせ、硬化が遅くなる。ウレタン樹脂系接着剤は、逆に水分や空気中の湿気と反応することによって硬化するので湿気が多ければ硬化が速まる。
湿度が低いとき	湿度が高いときとは逆にエマルジョン形・ラテックス形接着剤は硬化が速くなり、ウレタン樹脂系は遅くなる。
下地や空気中の高い湿気には注意する	コンクリート下地などからの高い湿気や空気中の高い湿度には、施工の際に注意が必要である。エマルジョン形・ラテックス形の接着剤は、湿気の影響を受け硬化が遅れる。接着硬化が遅れると、材料の環境変化による寸法変化を抑えきれず、浮き・膨れ・突き上げの原因となる。また施工中に夕立が降ったりした場合、空気中の湿気が増えると床面に塗布してオープンタイムを取っている接着剤の表面に水滴がつき、硬化を遅らせ強度を弱くする。これもまた膨れや突き上げの原因になる。

3.通気について

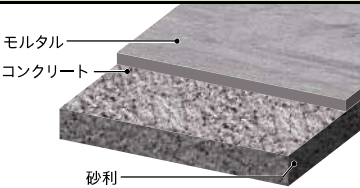
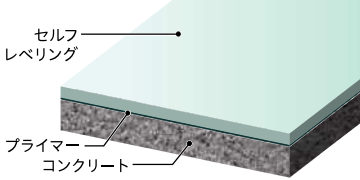
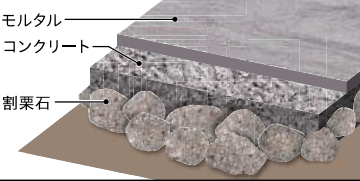
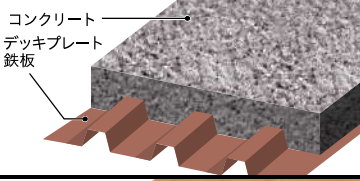
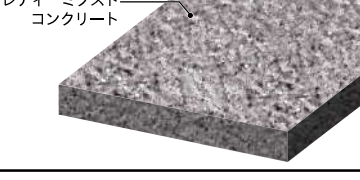
溶剤形の接着剤を使っているときは通気をし空気の入れ替えをするが、あまりにも風通しがいいと接着剤の乾燥が速くなり、オープンタイム、貼り付け可能時間等が短くなるので注意が必要。塗布量の加減、塗布面積にも加減が必要となる。特にエポキシ樹脂系、ウレタン樹脂系、ビニル共重合樹脂系などの溶剤形接着剤は、溶剤が入っているため風による揮発が早く、通気、通風がいいところでは、極端に乾燥が速くなるので試し塗りなどで乾燥状態を調べて施工を行う。
--

4.立地環境について

●寒冷地 寒冷地における低温は、接着剤の硬化の遅れや材料が硬くなる、縮むなどの寸法変化を起こす。また暖房使用時と使用していないときの温度差が激しいので膨れ・突き上げを招きやすい。施工時の室温を施工環境温度に高めることは勿論、できるだけ材料を施工時及びその後の養生時の温度になじませることが大切である。材料は施工する24時間前には施工場所に搬入し、施工環境温度、またできればその後の養生環境温度になじませておくことが大切である。
●埋立地 通常、埋立地は、普通の土地と比較して土中湿気が数倍高く、常に空気中に高い湿気が上昇している。下地を通して湿気が上がらないように、下地の下にポリエチレンなどの防湿フィルムを敷く必要がある。実際に水田を20年前に埋め立てたという土地でも、接着剤の無力化が起こりクレーンになった例もある。
●海・川・池 実際に300～400m離れた池の影響を受けたという例があるほど水場は影響する。海・川・池の近くは、空気中は勿論、土中を伝って下地への水分の影響がある。特に土中を伝ってモルタルから上がってくる水分はアルカリ性であり、ビニル共重合溶剤系の接着剤と加水分解と呼ばれる化学反応を起こし、それらの接着剤を無力化する。またコンクリート下地を通して運ばれる強アルカリ性の水分は、ビニル系床材に含まれる成分と化学反応を起こし、耐久性に悪影響を及ぼし製品の劣化に繋がることもある。
●地下室 長く使用されず放置されていたり、空調施設の施されていない地下室の空気は冷えており、その真上の部屋の床下地に影響を及ぼすことが多い。地下室と階上の部屋とで室内の温度差があると結露が発生し、下地を通して湿気が上昇し床材の突き上げや膨れなどの原因になる。この場合も下地の下に防湿フィルムを施す必要がある。

下地の確認 STEP1 吸水性と下地の種類

下地の吸水性は接着剤の塗布量・乾燥・接着効力に大きく影響し、接着剤のオープンタイムや選定等仕上げ材の施工方法に関わります。適切な施工には、下地の種類・特徴に応じた工法の選択と対処が必要です。

下地の種類	構成図	特徴・注意点
吸水性あり	モルタル 	セメントモルタルを金こて仕上げた下地。表面が滑らかで吸水性が良く、床材施工に適している。 *モルタル下のコンクリートの乾燥不足による湿気が、接着剤の効力に影響することがある。
	セルフレベリング床 	石膏又はセメント系の自然流動材を不陸のあるコンクリート等床面に流して、コテ押えなし(セルフレベリング:自己水平)で仕上げた下地。 *石膏系は強度が低く耐水性が無いため、塩ビ系床材には不適。セメント系はコンクリートやモルタルに比して厚みがないため弱い。樹脂が水分を閉じ込めるため、乾燥が極端に遅い。コンクリートに水分上昇を防ぐためのプライマーを塗るが、その乾燥状況により気泡が発生し、床材施工後に膨れの原因となる。
	土間コンクリート 	地面に直接接した状態でコンクリート仕上げた下地。 *吸水性の良いコンクリートが地面の湿気を床材に伝えることで、接着剤の効力に影響することがある。地面とコンクリートの間にポリエチレンフィルムを敷き、防水層を設ける場合が多い。
	鉄板上のコンクリート 	デッキプレート等の鉄板の上にコンクリートを打設し、金こて仕上かモルタル仕上げをした下地。 *特に鉄板(デッキプレート)下地とコンクリートの組合せは鉄板が水分を逃がさず、コンクリート表面からのみ乾燥する。このため、通常の約2倍以上の乾燥期間が必要となる。更に、鉄板下地と軽量コンクリートの場合は約5倍の乾燥時間を要する。
吸水性少ない	合板(コンパネ等) 	ベニヤを積層し、接着剤で張合せて1枚の板にした材料(合板)を用いた下地。 コンパネ:コンクリートパネルの略。コンクリート打設の型枠に使用される厚さが12mmの耐水合板「ラワンベニヤ」。 *他下地に比して剛性が低く、段差・隙間・たわみによる目地の収縮・突き上げにつながり易い。下地接合部の段差・隙間・釘頭は、床材施工後の不陸の原因となる。防腐剤や防蟻剤を使用しており、床材を汚す原因ともなる。
	モノリシック仕上げ 	「コンクリート一発仕上げ」と呼ばれる下地。乾燥が比較的早く、強度も出る。 *しばしば平滑性に欠け、コンクリートの目の粗さによるコテムラの発生、表面強度のばらつきがある。

下地の確認 STEP2 下地の乾燥状態の判断方法

■水分計を使用する方法

水分計の設置面が平坦でゴミ・埃がなく、通風のない場所を選んで下地水分の測定を行う。

■ポリエチレンフィルムを利用する方法

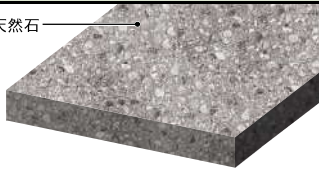
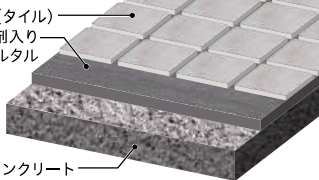
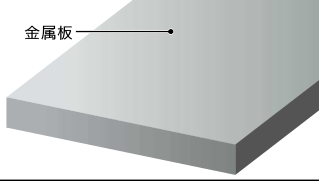
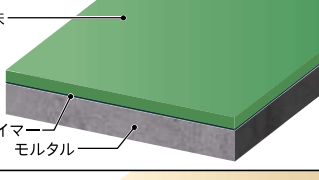
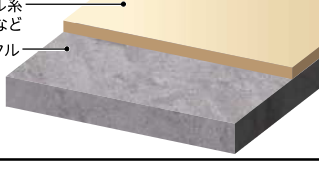
約1m角のポリエチレンフィルム(ゴミ袋等)を下地に広げ、空気が逃げないように四方をガムテープで張り、24時間放置する。その後、フィルム内側に付いた水滴や下地の変色状態を観察し判断する。

■バーナーを利用する方法

バーナー(トーチランプ)を用い下地表面を炙り、水滴の有無や変色状態を観察し判断する。

水分計*			水分計以外での確認方法		施工方法の目安
グレード	選択 D.MODE	従来の水分指標	ポリエチレンフィルム	バーナー	
I	440未満	8%以下	24時間後変化なし	下地表面に変化なし	一般工法
IIa	440以上620未満	8%~10%	24時間後黒ずみ(輪郭不明瞭)	下地表面が黒ずむ	耐湿工法
IIb	620以上	10%以上	24時間後に変色結露が見られる	下地表面に水滴が浮く	施工不可

*使用水分計:株式会社ケット科学研究所 高周波静電容量式水分計「HI-520-2」D.MODE選択による

下地の種類	構成図	特徴・注意点
吸水性なし	石材系 (大理石など) 	＊剛性が強く、僅かな段差・隙間・浮きを床材が拾ってしまう。破損・損傷部は下地補修剤などで平滑に仕上げる必要がある。
	磁器(タイル) 	＊表面の密閉性が高く、吸水性が全くない。粒子が球状のため、接着剤が付き難く施工できない。
	金属系 	＊ビス頭・溶接部等の凹凸、錆と油汚れに注意が必要。溶剤形の防錆剤がウレタン・エポキシ樹脂系溶剤形接着剤と反応し、防錆効果がなくなったり、接着効果がなくなる場合がある。
	塗り床 	コンクリートの上にウレタン塗料を塗った下地。 ＊継ぎ目がないため、平滑であれば施工しやすい。一方、さざ波仕上げなどは平滑性に欠けたり凹凸があるため注意が必要。剥離、クラックに対してはパテなどで補修をする。
	重ね貼り 	既設床材を剥がさずに施工する場合の総称。 ＊硬さ・不陸・目地部分の平滑性、ワックス付着に注意は必要。

■吸水性のある下地

エマルション形・ラテックス形・溶剤形等、液体の蒸発によって固化する接着剤と馴染みがよく乾燥しやすい。
 吸水性があるため、その下地(基礎)の影響も受けやすい。例えばモルタルはその下のコンクリートの湿気を吸収し、床仕上げ材に影響を与えることがある。

■吸水性の少ない下地

接着剤に含まれる液体が蒸発し難いため、エマルション形・ラテックス形・溶剤形は適さない。
 乾燥固化が遅いため、接着不良の原因となりやすい。反応型接着剤を用いるか、接着剤の塗布量を少なくする必要がある。

■吸水性のない下地

仕上げ材を通してしか接着剤に含まれる液体の蒸発がなく、接着剤の乾燥が極めて遅い。通常、反応型接着剤を用い、塗布量を少なめにし、オープンタイムにも注意を要する。床材の変質、目地からの接着剤の滲み出しにも注意する必要がある。

■株式会社ケット科学研究所製「コンクリート、モルタル水分計 HI-520-2」による水分測定方法(表面から40mm程度まで)

●測定手順

- ①測定対象床下地から、測定対象箇所を適宜選定する。
- ②水分計の各ダイヤルを以下の通りセットする。
Dモード
(厚さ: 40mm程度、温度: オート設定)
- ③水分計を測定対象箇所の床下地表面に置き、表示値を読み取る。
測定は水分計を置く位置を適宜ずらしながら数回行い、平均的な表示値を求めることとする。

●測定結果の評価: 測定表示値を左記表グレードで判断し施工方法の判定を行う。

測定方式	高周波容量式(20MHz)	HI-520-2 
測定対象・範囲	コンクリート	
	モルタル	
	ALC	
	人工軽量骨材コンクリート	
	石膏ボード	
	ケイ酸カルシウム板	
表示方法	Dモード	デジタル(LCD、表示最小桁0.1%)
	Sモード	
	電池 9V(006P アルカリ) ×1	
	消費電力 350mW	
	寸法・質量 72(W) × 146(D) × 118(H) mm, 0.39kg	
付属品	ソフトケース、電池、取扱説明書	

床暖房への施工

1. 床仕上げ材施工における床暖房の問題点

床暖房下地への施工は、床暖房機材と床仕上げ材が多様化・多機能化しており、床暖房による温度変化が下地にさまざまな変化をもたらすため、困難な施工の一つといえます。温度変化が引き起こす下地の伸縮、床仕上げ材の伸縮、下地の水分の急激な上昇、伸縮のため発生するコンクリート下地のクラックなどさまざまな問題が生じます。また床暖房機材によっては、場所により温度のバラツキの激しいものもあります。そのため事前の打ち合わせは入念に行う必要があります。下記のような問題が発生する可能性を事前にご理解のうえ施工を行ってください。

床暖房の基本的な問題

●加熱による下地への影響

加熱をすると下地から湿気が上昇しやすくなります。加熱による急激かつ多量の湿気の上昇は接着剤と下地との間に水分の膜をつくり、接着効力を無力化します。また下地に亀裂がある場合、加熱するとその部分が伸縮し、床材を押し上げることがあります。

●加熱による床材への影響

床暖房の加熱により床材自体が伸縮し、突き上げや膨れ、剥がれの原因になります。また、電熱線を熱源とした床暖房では、熱線部分の熱が集中し、筋状に床材が変色を起こすことがあります。また、保温、蓄熱性の高い敷物等を使用され、敷物等と床材の間に蓄熱した高温状態が長時間続くと床材が変色を起こすことがあります。

●加熱による接着剤への影響

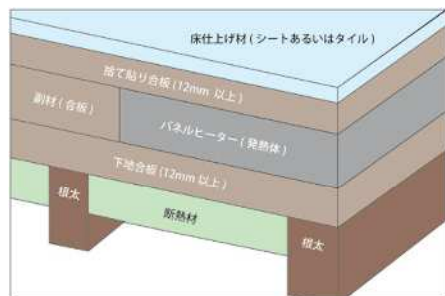
十分な接着剤の硬化が得られていない場合、加熱により接着剤の効力が損なわれ、突き上げや膨れ、剥がれの原因になります。

●暖房効率への影響

厚みのある床材、発泡層のある床材を敷設すると、暖房効率が低下する可能性があります。

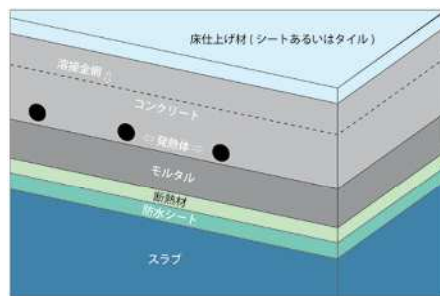
2. パネル型床暖房と埋設型床暖房

●パネル型床暖房



パネル型床暖房システムの問題点は、部材と部材の隙間や段差が床仕上げ材に影響を与えることです。これを防ぐために12mm合板などを捨て貼りします。一般的にはこの工事は建設工事であり、内装工事には入りません。捨て貼り合板自体に段差があったり、目地が床材に影響を与えそうなときは、サンダーなどで平滑な面にしてから施工してください。

●埋設型床暖房



埋設型床暖房システムの問題点は、通湯パイプから発生する熱がコンクリート下地にさまざまな変化をもたらすことです。急激な温度変化により、下地の水分が一気に上昇して床材や接着剤に影響を与えたり、下地自体にクラックが発生して床材に膨れなどのクレームを引き起こします。

埋設型床暖房の下地に対する事前対処

- 下地水分グレードが「I」であることを確認し、コンクリート乾燥の促進に床暖房試運転を行ってください。その際は床暖房使用時温度+5℃で繰り返し行い、クラックを十分に発生させ、クラックの不具合をチェックし補修します。
- 1mm未満のヘアークラックは段差をサンディングし平滑にします。1mm以上のクラックはクラックに沿って溝切りを行い、クラック補修材などを充填し処理を施してください。
- 下地の状態が悪く、床材の直貼りが困難と判断した場合は、厚み12mm以上の合板を捨て貼りしてください。

3. 床材の施工方法

●全面接着工法

エポキシ樹脂系接着剤またはウレタン樹脂系接着剤を下地全面に塗布して施工するもっとも基本的な工法です。下地の伸縮による影響を受けやすいですが、重歩行エリアや移動荷重がかかる場所には適しています。

●置き敷き工法

熱で寸法変化の少ない床材（カーペットタイル等）をピールアップタイプの接着剤で施工する工法です。（軽歩行エリア）

●額縁接着工法

ビニル床シートの施工において、周囲をエポキシ樹脂系接着剤またはウレタン樹脂系接着剤で強接着して、内側にアクリル樹脂系エマルション形接着剤を使用する方法です。下地に発生したクラックが多い場合や補修困難な場合に施し、下地の追従性を求めるとともに問題が発生した場合に補修しやすいように考慮された施工法です。この工法でおさめる際の条件は施工時に通熱することです。

一方、耐久性には劣るため、ホール・廊下といった重歩行エリアやキャスターなどの移動荷重がかかる場所では、この工法は避けてください。

4. 施工時の通熱

- 床暖房機材メーカーの施工マニュアルに通熱の指示がある場合はそれに従ってください。
- 施工時において、気温が20℃以上の場合には通熱しないのが一般的です。逆に気温が20℃未満の場合は2日前から通熱し、床材は24時間以上の仮敷きを行ってください。

5. 養生

- 通熱して施工が終了した場合、接着剤が硬化するまでの48時間は通熱したまま養生してください。

床暖房への施工

6. その他の注意点

- 非床暖房取り合い部の伸縮目地とクラック誘発目地の上は、床材の仕上げ施工はできません。エキスパンション金具処理及びコーキング処理をすることが必要となります。

7. 各種床仕上げ材特有の施工注意点

1) ビニル床シート

パネル型床暖房の注意点

- 捨て貼りをした合板とシートのジョイントが重なり合わないようにします。
- ジョイント部は液溶接工法ではなく熱溶接工法とし、溶接は48時間以上養生をした後、シートがよく接着されているのを確認してから常温で専用溶接棒を使い行ってください。

埋設型床暖房の注意点

- ジョイント部は液溶接工法ではなく熱溶接工法とし、溶接は48時間以上養生をした後、シートがよく接着されているのを確認してから常温で専用溶接棒を使い行ってください。

2) カーペットタイル・ビニル床タイル

パネル型床暖房・埋設型床暖房の注意点

- 施工24時間前から重ならないように仮敷きし、現場の室温になじませてください。
- 低温時はゆるめ、高温時はきつめに施工してください。後からの床材の寸法収縮を考慮して施工します。

床暖房施工可否表

種 類	商品名	可否	工 法
ビニル床シート	ナーシングフロア、ストロング、SKフロア、メディウオーク エスリューム（プレーン・マーブル・ミスト・ウッドII・ファイバー ルーミー・ジャットバウッド・ウィーブ）	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
機能性ビニル床シート	耐薬品性+耐動荷重性エスリューム、エスリューム・プラス 消臭SKフロア、消臭レストリューム	×（※1）	
防滑性ビニル床シート	ノンスキッド、オフフロア、プレーンエンボス ニューセーフティ	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
単層ビニル床シート	メガリット、グラニット、オデオンPUR、メディントーン	○（※2）	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
その他床シート	ココフロア（シート）	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
	フロテックスシート	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
	アンダーレイ	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
クッションフロア	1.8mm厚	×	
	店舗用フロア、3.5mm厚	×	
	遮音フロア	×	
	消臭快適フロア	×（※1）	
パンチカーペット	SベットECOII	×	
複層ビニル床タイル	2.5mm厚一般タイル、2mm厚タイル	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
	ラウンドエッジ	×	
	ファインメタル	×	
置き敷きビニル床タイル	OT、リフォルタ	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
コンポジションタイル	コンポジション	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
その他タイル	ルームプラス	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
	ココフロア（タイル）	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
	たたみタイル、とうタイル	×（※1）	
コルクタイル	KR-4273	○（※3）	全面接着工法（SD）
	KR-4271、4272、4274	×	
カーペットタイル	NT/DTシリーズ（NT-350S、NT-700S、輸入品除く） グラフィカシリーズ、スタイルキットシリーズ、ファミタシリーズ アンダーレイ+カーペットタイル（上記に準ずる）	○	軽歩行：置き敷き工法（GT、GTS） 中・重歩行：全面接着 （EP-300、WPX、WG）
	NT-350S、NT-700S、輸入品（NT-760P、NT-1200、NT-440 NT-920、NT-140、NT-1150、NT-1050、NT-1100、DT-5050 NT-840H、NT-8000、NT-8100、DT-6200、DT-6300 DT-6350、DT-6400、DT-6600、DT-6650、DT-6700 DT-7200、DT-8500、DT-8850）	×	
ロールカーペット	全品種（カンガバック品除く）	○（※4）	全面接着工法（EP-300、WPX、WG） グリッパ工法
	カンガバック品（サンシンフォニー、サンコーラス）	×	
ウッドフロア	ウッドフロアL-40・L-45シリーズ	○	全面接着工法（WF）

※1 機能性商品は性能が低下する場合があります。

※2 寸法安定性を担保するガラス繊維層を持たない単層シートでは、加熱による後伸びを避けることができません。耐熱性の接着剤を使用し、しっかりと圧着してください。

※3 接着剤はSD（BB-581）を使用してください。コルクタイルは縮む性質がありますのでしっかりと鉄ローラーで圧着してください。

※4 ロールカーペットは裏面にジュート（麻）を使用しているため、特有の臭いがあります。臭いが気になる方はご使用をお避けください。

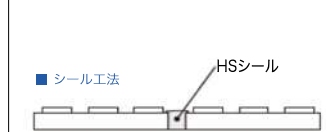
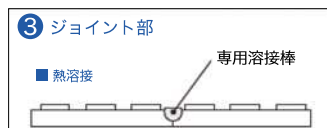
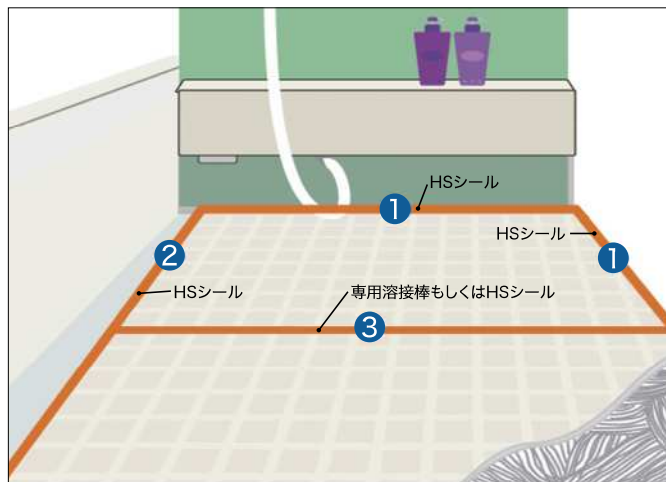
オフフロア施工説明

■基本手順



■収まり図

壁際や側溝の端部やジョイント部の全景です。

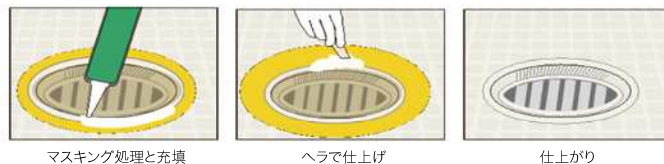


■副資材 シール剤対照表

端部処理例



排水口処理例 ※円形目皿の場合



シート／シール剤品番対照表

商品名	シート品番	HSシール品番
オフフロア	OH-4583	BB-574
	OH-4584	BB-574
	OH-4585	BB-574
	OH-4586	BB-574
	OH-4587	BB-563
プレーンエンボス (浴室使用可能タイプ)	PM-4588	BB-574
	PM-4589	BB-574
	PM-4590	BB-563

※上記は床材・各副資材の組み合わせ例であり、完全には色が合いませんのでお含みください。

1.環境・下地の確認と補修方法

オフフロアを施工する下地としての条件に適しているかどうかをチェックします。スムーズに水掃けがなされるよう、なだらかな勾配のある下地作りをしてください。

■モルタル・コンクリート下地

下地湿気は、高周波水分計『HI-520-2』D.MODE440未満(グレードI)を条件とします。
下地の不陸や凸凹はケレンしたりフロアセメント(BB-492・493)で補修します。

■セラミックタイル下地

下地に浮きや割れがないかを打診などで確認します。
目地や不陸、割れなどはフロアセメント(BB-492・493)などで埋めて全体が平滑になるように仕上げます。

■FRP下地

FRP下地は補修材や接着剤の密着性に劣る場合があります。全面をサンドペーパーなどで荒らして、FRP用のパテで全面を平滑になるように仕上げます。

下地補修により膨れや凹みができる、水掃け勾配が取れなくなり水掃けが悪くなりますので、必ず平滑でスムーズな水掃けができる勾配を確保してください。

2.材料納入・仮敷き

現場の環境になじませ、運搬時の巻き癖、伸縮などを取り除くために必ず仮敷きしてください。特に低温時や寒冷地の場合、シートが硬くなっているため十分な仮敷き時間をとります。

3.下地の清掃

床の汚れ・ゴミ・ちりなどは接着剤の効力を弱めクレームの原因となりますので、清掃の段階で確実に取り除いてください。

4.割付け・粗切り

施工後の水の流れを妨げないようにできるだけ目地が少なくなるように割付けし、長めにカットしておきます。

5.シートのカット

壁際に位置する面や排水口などは3～5mm程度シールしろを空けて、巾定規やバースクレイパーなどを用いてカットします。

6.ジョイントの裁断

専用溶接棒で継ぎ目処理をする場合は、落とし込み工法で処理します。スクレイパーなどでだけがいってからカットしてください。

※シール工法で継ぎ目処理をする場合はシールしろを3～5mm透かしてシートを施工してください。

7.接着剤の塗布

EP-300(BB-575・584)を専用クシ目を使用して全面に塗布します。
※接着剤はA液・B液それぞれを十分攪拌した上でバケツなどに入れて十分に攪拌してください(床面で混ぜ合わせると接着不良の原因になります)。

8.シートの貼付/圧着/エア抜き

エアを巻き込んだり、たるみが出ないように、ハンドローラーなどで中央から空気を追い出すようにして貼付けます。
空気だまりは下地の湿気などの影響を受けて膨れの原因になりやすいため、ちいさなものでも見逃さず必ず取り除いてください。
施工後は目地部分を含め、シート全面をハンドローラーなどで十分に圧着します。

9-1.継ぎ目処理(熱溶接工法)

■オフロア専用溶接棒を使用します。

①溝切り

シートの貼り付け・圧着の後、接着剤が完全に硬化してから、継ぎ目部分をU字もしくはV字に溝切りします。

※溝の深さは、オフロアの厚みに対して2/3程度としてください。
※ジョイント箇所は溶接後の水掃けを考慮しオフロアのエンボスの一番低い目地部分でジョイントしてください。

②熱風溶接

専用溶接機ライスターを使用して目地部分を溶接します。
※熱風の温度が高すぎるとジョイント周辺のシート表面が溶解しツヤが出る場合がありますので十分に注意してください。

③余剰部分カット

溶接棒が十分に固まった状態でスパトラナイフなどを用いて余剰分をカットします。

※溶接棒が固まる前にカットすると後に溶接棒がヤセ、凹みとなる場合がありますので十分に注意してください。

9-2.継ぎ目処理(シーリング工法)

■シーリング剤(HSシール)を使用します。

①シート施工時にジョイント部を3～5mm空けておきます

※ジョイント箇所は溶接後の水掃けを考慮しオフロアのエンボスの一番低い目地部分でジョイントしてください。

②シーリング部分の確認・清掃

シーリングを施す面が、ゴミやホコリなどで汚れていないかを確認し、汚れている場合は清掃してください。
また湿気のある場合は十分に乾燥させてから作業してください。

③マスキング処理

仕上がり美しくするために、シーリング部分にマスキングテープを貼りマスキング処理をしてください。

④充填と仕上げ

気泡を取り込まないようにシーリング面に均一になるようにHSシールを充填し、充填後は平らになるようにヘラで整えてください。

⑤マスキングテープの除去・養生

表面を仕上げた後、マスキングテープを取り除き、24時間養生します。その後入浴は可能ですが、シールが完全に硬化するまでには2～3日かかりますのでシール部分の清掃は控えてください。

10.端部・排水口処理(シーリング工法)

■シーリング剤(HSシール)を使用します。

①シーリング部分の確認・清掃

シーリングを施す面が、ゴミやホコリなどで汚れていないかを確認し、汚れている場合は清掃してください。
また湿気のある場合は十分に乾燥させてから作業してください。

②マスキング処理

仕上がり美しくするために、シーリング部分にマスキングテープを貼りマスキング処理をしてください。

③充填と仕上げ

気泡を取り込まないようにシーリング面に均一になるようにHSシールを充填し、充填後は平らになるようにヘラで整えてください。

④マスキングテープの除去・養生

表面を仕上げた後、マスキングテープを取り除き、24時間養生します。その後入浴は可能ですが、シールが完全に硬化するまでには2～3日かかりますのでシール部分の清掃は控えてください。

11.養生

施工完了後、床材の浮き、膨れ、剥がれ、突き上げなどの不備や接着剤による汚れがないかを確認します。
施工後の汚れや破損を防止するため、必要に応じて養生シートなどで保護してください。
また、シール剤が完全に硬化するまではシール部分を踏んだり、ブラシなどでの清掃は避けください。

12.引渡し前清掃

引渡し前に清掃をお願いします。

日常のお手入れ

①浴室を水洗い

床・浴槽を熱いお湯で洗い流した後、スポンジなどで水洗いをしながら冷たい水で洗い流します。
水洗いでも浴室内の温度を下げる事で熱気がこもらないようにします。

②浴室洗剤を使ってブラッシング

浴室には人の脂肪分や石鹸カス、ホコリなど様々な汚れが付着します。浴室用洗剤を使用して、デッキブラシ・浴室用ブラシなどでかきだすようにして清掃します。

③換気

浴室は多量の水蒸気が発生します。
換気扇を回す、水分をふき取るなどして湿気を追い出します。

④日常メンテナンスのポイント

乾燥して汚れがこびりついてしまう前に、汚れを落とす事がオフロアをきれいに長く使って頂くコツです。
適正な日常清掃を心がけてください。

使用上のご注意

①ゴム汚染について

浴室用車椅子の車輪やキャスター、浴室用の椅子や台などに使われているゴム製品が、床材表面に接触すると、ゴムに含まれる成分により汚染される事があります。この汚染は除去することができませんので、ゴムの使用を避けるかゴムが床に直接触れないように下敷きなど保護板を用いてください。

②カビ対策について

シートに水分が残っているとカビの原因となります。
長時間使用しない部屋では換気を心がけてください。水垢や髪の毛、石鹸カスなどもカビの原因となります。

③重量物を置く場合について

重量物を無理に引きずると剥がれ、膨れなどの原因となりますので注意してください。
局部的に荷重がかかると凹み跡が残る場合がありますので、場所を替えて使用するなど注意してください。

④色移りなどについて

毛染め液、ヘアマニキュアなどの着色成分や化学薬品や強い作用を持つ洗剤、漂白剤などにより変退色や変質を招く可能性があります。
こぼれた場合はただちに洗い流してください。また、履物やタオル、ランドリーバックなどに含まれる染料が床材に着色する場合がありますので、放置しないでください。

⑤金属さびについて

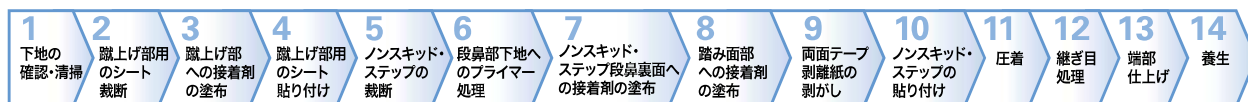
カミソリやヘアピンなど、さびの原因になるものを放置すると、さびがシートを変色させる場合がありますので、放置しないようにしてください。

⑥日常ケアについて

シートの表面に水分が長時間滞留する状態が続くとシート表面が白っぽく変色する事があります。
この変色が発生した場合、充分に乾燥させる事で元の状態に戻りますが、水分が長時間滞留しないよう拭き取りや換気をするなど、こまめなケアが大切です。

ノンスキッド・ステップ(踏み面タイプ)施工説明

基本手順



1. 下地の確認・清掃

砂やチリ、埃等を除去し、適切な下地処理を行い、下地が十分に平滑で乾燥していることを確認してください。
※平鋼板下地は、エポキシ系防錆塗料で十分な防錆処理をしてください。

2. 蹴上げ部用のシート裁断

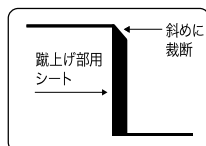
階段蹴上げ部の幅、高さを測定し、蹴込みシートの長手方向が階段蹴上げの幅方向となるように裁断してください。

3. 蹴上げ部への接着剤の塗布

階段蹴上げ部にWG10kg缶 (BB-602) を塗布してください。
※オープンタイムは20～50分程度が目安です。

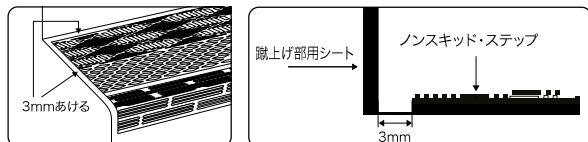
4. 蹴上げ部用のシート貼り付け

貼り付け後はハンドローラー等で十分圧着してください。
蹴上げ部用上部部は斜めに裁断してください。



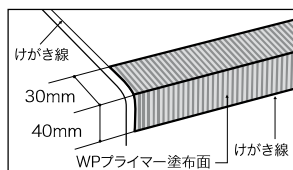
5. ノンスキッド・ステップの裁断

踏み面部の幅、奥行きを測定し、シール剤(端部処理剤)の仕上げしるとして3mm程度短く裁断してください。
左右両端部をあけて施工する場合、あらかじめ下地にあける寸法をけがき、幅を測定してください。
階段に排水溝がある場合は、排水溝より5～15mm程度手前でノンスキッド・ステップを裁断してください。



6. 段鼻部下地へのプライマー処理

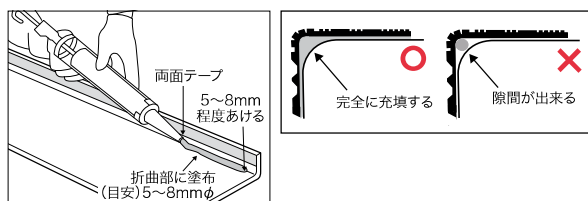
段鼻部の下地には、必ずプライマー処理を行ってください。



図の斜線部の下地に、WPプライマー (BB-507) をハケで均一に塗布し、30分程度乾燥させてください。
WPプライマー塗布面は、汚さないように注意してください。

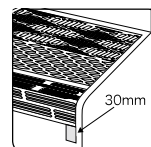
7. ノンスキッド・ステップ段鼻裏面への接着剤の塗布

ノンスキッド・ステップ段鼻の裏面に、WPステップ500gカートリッジ (BB-604) を目安として5～8mmφの太さで、塗布してください。
両端より5～8mm程度内側まで塗布してください。
ノンスキッド・ステップを貼り付けるとき、段鼻裏面から蹴上げ部に接着剤が行き渡り、強固に接着出来ます。
※オープンタイムは20～50分程度が目安です。
WPステップを塗布しなかったり、塗布量が不十分な場合、段鼻部の亀裂や剥離が発生する場合がありますので、ご注意ください。



8. 踏み面部への接着剤の塗布

WG10kg缶 (BB-602) を踏み面部全体(段鼻部の前垂れ部は含まず)にくし目ゴテで塗布してください。
※オープンタイムは20～50分程度が目安です。

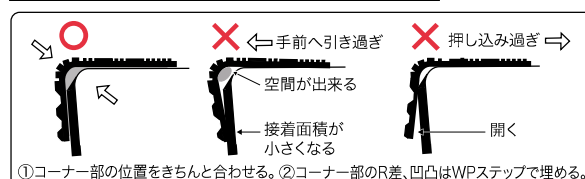


9. 両面テープ剥離紙の剥がし

ノンスキッド・ステップ裏面に貼り付けてある両面テープの剥離紙を30mm程度剥がしてください。

10. ノンスキッド・ステップの貼り付け

ノンスキッド・ステップの折り曲げ部分を階段の段鼻部に合わせ、折り曲げ部に空洞が生じないように貼り付けてください。



11. 圧着

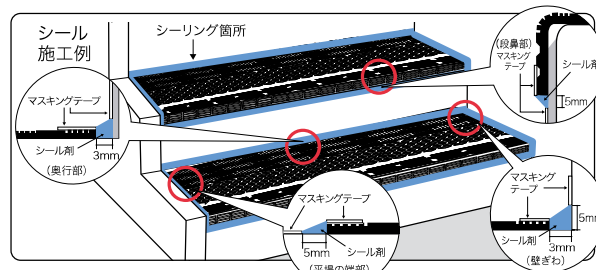
ノンスキッド・ステップの踏み面部をハンドローラーやコーナーローラー等で圧着してください。
接着剤のはみ出し、商品の変形が発生する場合がありますので、段鼻部は圧縮し過ぎないようにご注意ください。
剥離紙を全て剥がし、前垂れ部をハンドローラーやゴムハンマー等で圧着してください。
※接着剤が完全に硬化するまでは段鼻部を踏まないでください。

12. 継ぎ目処理

ノンスキッド・ステップとノンスキッドの継ぎ目は、接着剤が硬化してから、専用溶接棒を用いて熱溶接してください。

13. 端部仕上げ

ノンスキッド・ステップ蹴込みシート端部を、5mm幅程度に仕上がるようにマスキングテープで養生してください。
各種シール剤で周囲の端部をすべてシーリングします。
シーリング後、仕上げ用ヘラで仕上げ、マスキングテープを剥がします。



※ノンスキッド・ステップ(踏み面タイプ)のみの施工の場合です。蹴上げ部にシートを施工する際は、蹴上げ部両サイドもシーリングしてください。

14. 養生

清掃後、接着剤とシール剤が硬化するまで歩行を控えてください。(24時間程度)
特に、接着剤が硬化する前に段鼻部の角を踏まないようご注意ください。段鼻部が変形したまま接着剤が硬化しますと、剥離や亀裂が発生する恐れがあります。

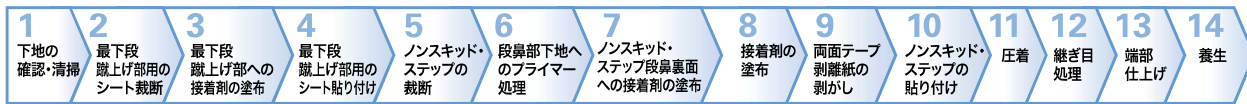
専用接着剤の標準塗布量

		900mm巾タイプ	1200mm巾タイプ
BB-602	WG10kg缶	110段/缶	82段/缶
BB-604	WPステップ 500gカートリッジx2本セット	20段/セット	14段/セット
BB-507	WPプライマー400g缶	79段/缶	59段/缶

※踏み面の奥行き250mmを想定し算出しています。

ノンスキッド・ステップ(蹴込み一体タイプ)施工説明

基本手順



1.下地の確認・清掃

砂やチリ、埃等を除去し、適切な下地処理を行い、下地が十分に平滑で乾燥していることを確認してください。
※平鋼板下地は、エポキシ系防錆塗料で十分な防錆処理をしてください。

2.最下段蹴上げ部用のシート裁断

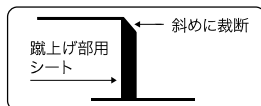
最下段の蹴上げ部の幅、高さを測定し、ノンスキッド・ステップを裁断して蹴込みシートとして使用してください。
残った材料は最上段の踊り場で使用します。

3.最下段蹴上げ部への接着剤の塗布

最下段の蹴上げ部にWG10kg缶(BB-602)を塗布してください。
※オープンタイムは20～50分程度が目安です。

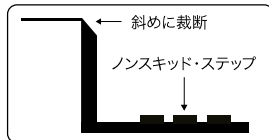
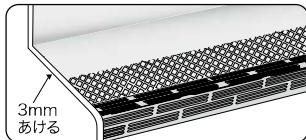
4.最下段蹴上げ部用のシート貼り付け

貼り付け後はハンドローラー等で十分圧着してください。
蹴上げ部用シート上端部は斜めに裁断してください。



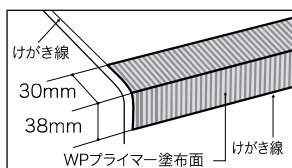
5.ノンスキッド・ステップの裁断

踏み面部の幅・奥行き、蹴上げ部の幅・高さを測定し、シール剤(端部処理剤)の仕上げしろとして幅は3mm程度短く裁断してください。
左右両端部をあげて施工する場合、あらかじめ下地にあける寸法をけがき、幅を測定してください。
階段に排水溝がある場合は、排水溝より5～15mm程度手前でノンスキッド・ステップを裁断してください。



6.段鼻部下地へのプライマー処理

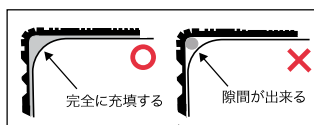
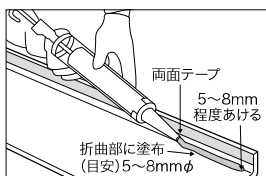
段鼻部の下地には、必ずプライマー処理を行ってください。



図の斜線部の下地に、WPプライマー(BB-507)をハケで均一に塗布し、30分程度乾燥させてください。
WPプライマー塗布面は、汚さないように注意してください。

7.ノンスキッド・ステップ段鼻裏面への接着剤の塗布

ノンスキッド・ステップ段鼻の裏面に、WPステップ500gカートリッジ(BB-604)を目安として5～8mmφの太さで、塗布してください。
両端より5～8mm程度内側まで塗布してください。
ノンスキッド・ステップを貼り付けるとき、段鼻裏面から蹴上げ部に接着剤が行き渡り、強固に接着出来ます。
※オープンタイムは20～50分程度が目安です。
WPステップを塗布しなかったり、塗布量が不十分な場合、段鼻部の亀裂や剥離が発生する場合がありますので、ご注意ください。



8.接着剤の塗布

WG10kg缶(BB-602)を、踏み面及び蹴上げ部全体(段鼻部の前垂れ部は含まず)にくし目ゴテで塗布してください。
※オープンタイムは20～50分程度が目安です。

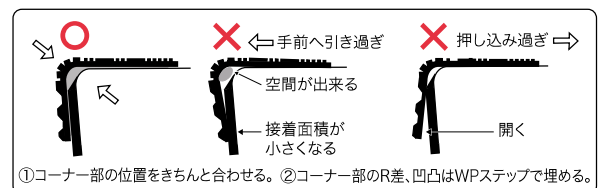
9.両面テープ剥離紙の剥がし

ノンスキッド・ステップ裏面に貼り付けてある両面テープの剥離紙を30mm程度剥がしてください。



10.ノンスキッド・ステップの貼り付け

ノンスキッド・ステップの折り曲げ部分を階段の段鼻部に合わせ、折り曲げ部に空洞が生じないように貼り付けてください。



蹴上げ部への貼り付けはシート裏面をガストーチで加熱し、コーナーローラーなどで軽く折ぐせをつけてから、貼り付けてください。

11.圧着

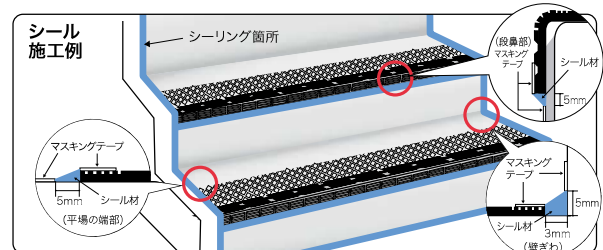
ノンスキッド・ステップの踏み面部及び蹴上げ部をハンドローラーやコーナーローラー等で圧着してください。
接着剤のみ出し、商品の変形が発生する場合がありますので、段鼻部は圧着し過ぎないようにご注意ください。
剥離紙を全て剥がし、前垂れ部をハンドローラーやゴムハンマー等で圧着してください。
※接着剤が完全に硬化するまでは段鼻部を踏まないでください。

12.継ぎ目処理

ノンスキッド・ステップとノンスキッドの継ぎ目は、接着剤が硬化してから、専用溶接棒を用いて熱溶接してください。

13.端部仕上げ

ノンスキッド・ステップ端部を、5mm幅程度に仕上がるようにマスキングテープで養生してください。
各種シール材で周囲の端部をすべてシーリングします。
シーリング後、仕上げ用ヘラで仕上げ、マスキングテープを剥がします。



14.養生

清掃後、接着剤とシール剤が硬化するまで歩行を控えてください。
(24時間程度)
特に、接着剤が硬化する前に段鼻部の角を踏まないようご注意ください。
段鼻部が変形したまま接着剤が硬化しますと、剥離や亀裂が発生する恐れがあります。

専用接着剤の標準塗布量

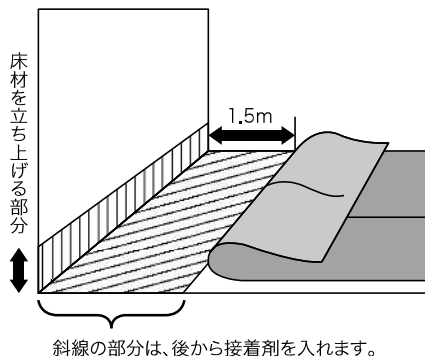
		900mm巾タイプ	1200mm巾タイプ
BB-602	WG10kg缶	60段/缶	46段/缶
BB-604	WPステップ 500gカートリッジ×2本セット	20段/セット	14段/セット
BB-507	WPプライマー-400g缶	79段/缶	59段/缶

※踏み面の奥行き250mm、蹴上げの高さ200mmを想定し算出しています。

巻き上げ施工説明

1.床面への施工

ビニル床シートを巾木の代わりとして巻き上げるため、巻き上げに必要な面積を荒切り時から計算して残しておき、シートを施工します。



斜線の部分は、後から接着剤を入れます。

2.巻き上げ部分を施工

巻き上げ部分の壁に接着剤を塗布しシートを巻き上げて貼付します。シートが硬くて巻き上がらないときは、トーチランプ等で温めて柔らかくしながら施工してください。
必要に応じて面材 (PM-4761・4762) を使用してください。

モール材を使用する場合

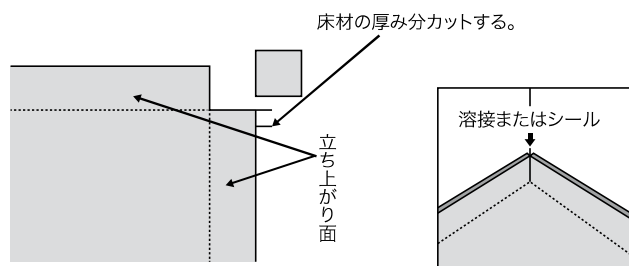
巻き上げ高さ天端の墨線に沿ってモール材を貼り付けていきます。モール材には両面テープが施してありますが、下地によってはモール材の端部や裏面にベンリグサイン瞬間ゼリー (BB-589) を塗布してください。巻き上げ部へシートを貼り付け後、モール材のシート飲み込み部下線に沿ってフックカッター等で隙間が生じないように切り込んでください。

3.ジョイントの施工

ジョイントの施工は接着剤が硬化したのを確認してから熱溶接やパーフェクトシームジェルチューブ入り (BB-394) で処理してください。接着剤の硬化を十分に得られないとジョイント部の剥がれに繋がるため、貼り付け後24時間養生してください。

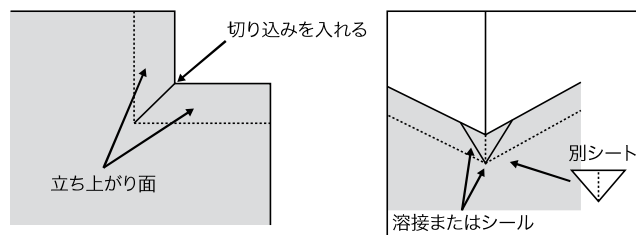
入隅処理

入隅部分に合せて角を四角く切り込み、施工する。
継ぎ目部分は熱溶接やパーフェクトシームジェルチューブ入り (BB-394) で処理してください。



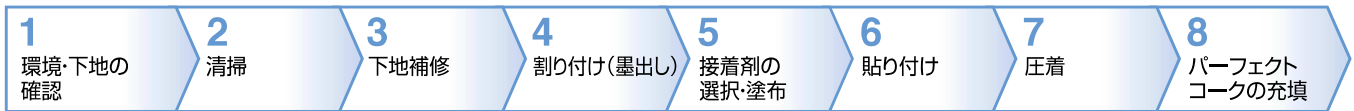
出隅処理

出隅部分に合せてシートを切り込み、出隅部分は端材などから別シートを切り出して継ぎ足します。
継ぎ目部分は熱溶接やパーフェクトシームジェルチューブ入り (BB-394) で処理してください。
巻き上げ施工において、特に出隅部分の施工が困難であり、慎重に施工してください。
必要に応じて面材出隅材 (PM-4761-1・4762-1) を使用してください。



ラウンドエッジ 施工・メンテナンス説明

■基本手順



■施工について

1.環境・下地の確認

砂や塵、埃などを除去し、適切な下地処理を行い、平滑でよく乾燥していることを確認してください。

貼り替えの場合、下地に残った接着剤をきれいに除去してください。下地に不陸がある場合は、フロアセメント(BB-492・493)にて平滑にしてください。

2.清掃

床の汚れ・ゴミ・塵などは接着剤の効力を弱め、クレームの原因に繋がるため、清掃をしっかりと行ってください。

3.下地補修

下地の確認を行った時点で、下地に亀裂が見られたり、平滑でないときなど、床用の下地調整材で補修してください。

4.割り付け(墨出し)

基準線を中心にして左右対称になるよう墨を打ってください。壁際には商品サイズの半分以上の端物が入ることは、できる限り避けてください。そういった場合は基準線を中心からずらしていただく事をおすすめします。

5.接着剤の選択・塗布

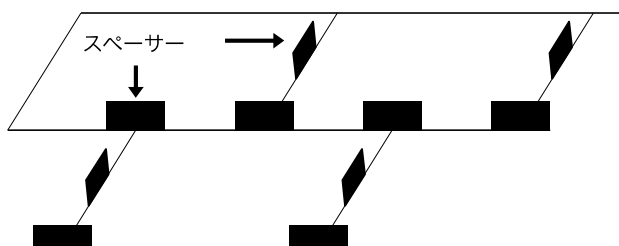
一般工法:PC-2、AR

耐湿工法:EP-300、WPX、WG

接着剤塗布時は、接着剤指定のヘラを使用してください。

6.貼り付け

ラウンドエッジの素材感を活かし、長く美観を維持するためにパーフェクトコーク(BB-591・593・599)を使用した目地剤施工をしてください。同梱のスペーサー(1.6mm厚)を使用すると、目地の幅が等間隔となり、施工中のズレの防止にも役立ちます。



設計上やむを得ない事情により、突きつけ施工をする場合、パーフェクトシームジェルチューブ入り(BB-394)で止水処理してください。

目地剤施工を行わなかった場合、目地から水分が浸入し、接着阻害による下地からのタイルの剥離、タイルの層間での剥離が発生する場合があります。

デザイン貼りなどで、タイルをカットしての突き合わせがある場合、パーフェクトシームで剥離防止処理を行ってください。

壁面でのカットによる断面処理は、壁に対し2～3mmの隙間をとってパーフェクトコークを充填してください。市販のシリコンを使用する場合は隙間なしで充填してください。

7.圧着

バンドローラーでの圧着時にスペーサーを外してください。

スペーサーを外すタイミングが早いと、タイルがずれてしまう場合がありますので注意してください。

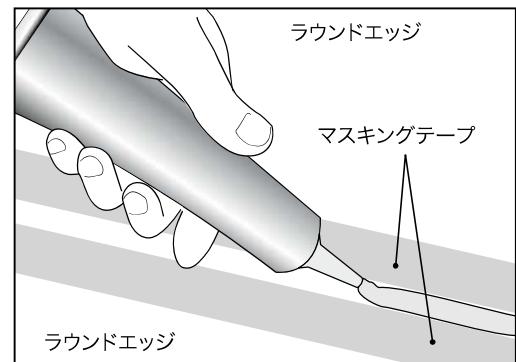
8.パーフェクトコークの充填

パーフェクトコークを充填する時は、マスキングテープでタイルを保護すると、はみ出しによる汚れを防げます。

マスキングテープを使用しない場合、パーフェクトコークのはみ出しは、乾燥する前にきれいな濡れ雑巾などでふき取ってください。

丸みのあるヘラや、指を保護した状態でパーフェクトコーク表面をなぞるときれいに仕上がります。

パーフェクトコークの施工可能㎡数は1本当たり4.5㎡が目安です。



■メンテナンスについて

1.クリーニング

モップを使用する際は、清水を染みこませ固く絞り、水分の使用を極力控えてください。

しつこい汚れはスカットクリーナー(BB-477)で落としてください。スカットクリーナーが目地部分に付着しないようご注意ください。

2.ワックス

クリーニングを行った上で、定期的にワックスの塗布を行ってください。

3.ポリッシャー

局部的な摩耗を避けるため、目が粗い黒パッドの使用はお避けください。ブラシは目地剤を傷めることがあるためお避けください。

4.剥離洗浄

ワックス除去後すぐに、固く絞ったモップでリムーバーを拭き取り、残留が無いようにしてください。

5.目地剤

目地剤が汚れたり、欠落した場合、汚れを取り除き再充填してください。

■注意事項

施工場所

トイレなど常にか水がかかる場所や、キャスト付き重量物が移動する場所での使用はお避けください。

保管場所

高温(50℃以上)となる環境での保管はお避けください。

施工前の商品養生

箱から出して積み重ね(最大10ケースまで)、平坦な場所で24時間以上室温になじませてください。

施工環境

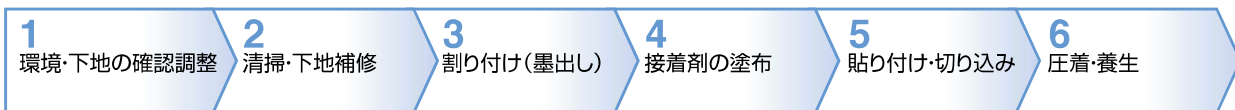
施工環境温度は15℃以上を保ってください。

パーフェクトコークの乾燥

パーフェクトコークは乾燥するまで最低24時間かかります。その間、歩行を制限するか、通気性のあるシートなどで汚れを防いでください。

シェブロンウッド・シェブロンストーン 施工説明

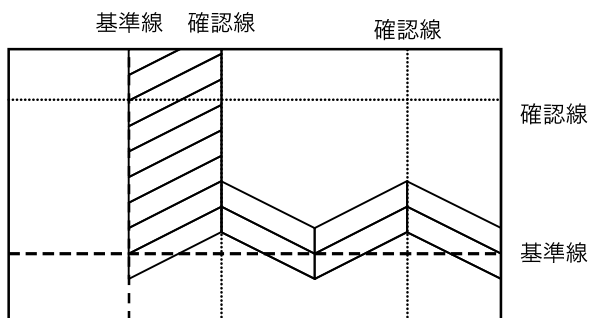
■基本手順



施工の基本手順(1.環境・下地の確認調整、2.清掃・下地補修、6.圧着・養生)は一般的なフロアタイル(複層ビニル床タイル)施工に準じます。

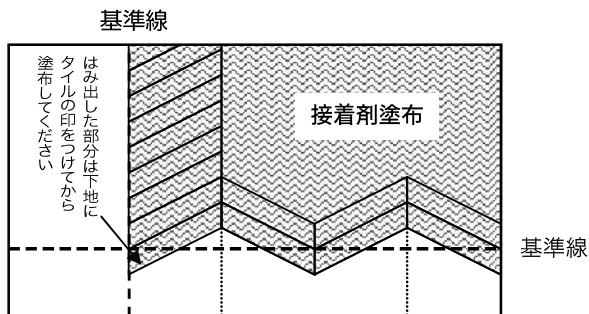
3. 割り付け(墨出し)

壁際のタイルの納まりを考慮した割り付けを行い、基準線を引いてください。
貼り進める際に、必要に応じてタテ・ヨコに確認線を引きながら、ズレがないように貼り付けてください。



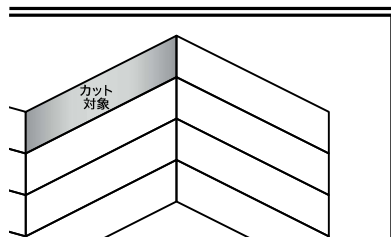
4. 接着剤の塗布

区画を分けて接着剤を塗布する際は、基準線からはみ出して施工するタイルの箇所には、下地にタイルの位置の印をつけてから塗布してください。



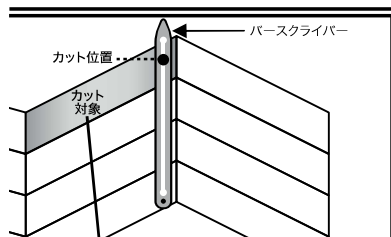
5. 貼り付け・切り込み

壁際



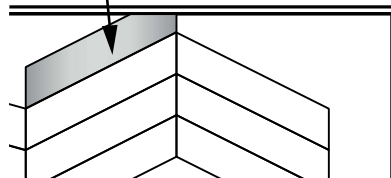
① 図のようにカット対象のタイルを1枚手前の貼り付け済のタイルの上に角・辺を合わせて重ねて置きます。

壁際



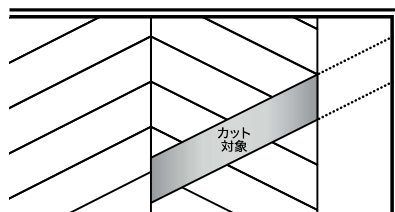
② タイルを貼り込む短手の寸法を基準としてパースクライバーを壁に沿ってスライドさせながらマーキングしてカットします。(パースクライバーの設定は短手の一辺の寸法)

壁際



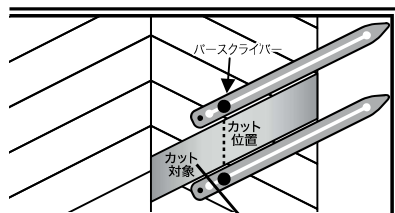
③ カットしたタイル片をはめ込みます。

壁際



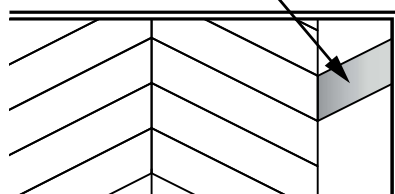
④ 図のようにカット対象のタイルを延長線上にある1列手前の貼り付け済のタイルの上に短手の辺を合わせて重ねて置きます。

壁際



⑤ タイルを貼り込む長手の寸法を基準として延長線上の両端をマーキングしてカットします。(パースクライバーの設定は長手の一辺の寸法)

壁際



⑥ カットしたタイル片をはめ込みます。

■注意事項

- カッティングの精度には十分注意しておりますが、タイルの寸法にバラつきがある場合、寸法の調整や目地剤(パーフェクトコーク BB-590~599・605)の充填をお願いします。
- 特殊な形状のため、割り付けや施工に時間を要することをお含みおください。

リフォルト施工説明

■基本手順



1.環境・下地の確認

施工時の環境(湿気・温度)を確認してください。
下地がモルタル下地の場合、十分に乾燥しているかを確認してください。
※下地の水分レベルはグレードI(水分計HI-520-2のD.MODEで440未満)としてください。
合板下地の場合、釘止めで、釘頭は良く打ちこんであることを確認してください。下地のたわみや段差がないか確認してください。
砂や塵、埃等を除去し、適切な下地処理を行い、平滑でよく乾燥し、強固であることを確認してください。下地に不陸や隙間(フローリングの目地隙など)があるまま施工すると、施工後にタイルの表面に不陸や隙の形状が陰影として映ることがあります。
貼り替えの場合、下地に残った接着剤はきれいに除去、または下地補修材で平滑に仕上げてください。

施工可能な下地

コンパネ/モルタル/クッションフロア(3.0mm厚未満)/フローリング(バックングの無いもの)

施工できない下地

フリーアクセスフロア/クッションバックング付きのフローリング/3.0mm厚以上のクッションフロア/クッション性が高く沈み込みの激しい床材等
※制電タイプのタイルではありませんので、帯電防止性能を求められる場所での使用は避けてください。

2.清掃

床の汚れ・ゴミ・塵などは接着剤の効力を弱めクレームの原因に繋がるため、清掃をしっかりと行ってください。

3.下地補修

下地の確認を行った時点で、下地の亀裂や平滑でない部分は、床用の下地調整材で補修してください。

4.割り付け(墨出し)

基準線を中心にして左右対称になるよう墨を打ってください。壁際には商品サイズの半分以下の端物が入ることは、できる限り避けてください。そういった場合は基準線を中心からずらしていただく事をおすすめします。

5.接着剤の選択・塗布

①かんたんリフォーム工法(ピールアップ工法)

GTS(BB-558・588)を専用ヘラ(BB-401)またはローラー(中毛)で平滑に塗布してください。専用接着剤GTSの塗布量は100g~150g/m²です。糊だまりや塗りムラがあると表面に塗布跡が現れる場合があります。ローラーで塗布する場合は、厚塗りを行ってください。
(1度塗りでは50g/m²しか塗布できません。)
塗布量が少ないと、接着力が不足し、突き上げや目隙の原因となります。

②一般工法(接着工法)

PC-2(BB-576・577)をご使用ください。
※完全接着するため剥がしにくくなります。
※気温、下地を考慮し、各接着剤の適切なオープンタイムを取ってください。

③耐湿・耐熱工法(水分が高い、または耐熱が求められる場合)

EP-300(BB-575・584)・WPX(BB-479・480)・WG(BB-601・602・603)をご使用ください。
※完全接着するため剥がしにくくなります。

▶**注意** 吸水性の高い下地や、下地補修材で調整を行った箇所は、塗布量を増やしてください。
常に直射日光が当たる場合、床暖房を使用される場合は、耐熱工法を行ってください。

6.貼り付け

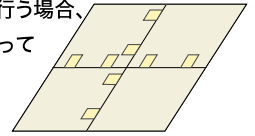
施工時の環時の室温は15~30℃を保ってください。施工時の室温とタイルに温度差があると、施工直後だけではなく、後日、目地隙き、突き上げが生じる可能性があります。

▶**注意** 10℃以下での施工は避けてください。

タイルの詰めすぎは、突上げの原因になりますのでお避けください。
夏場などの高温時は、『きつめ』に施工してください。

やむなく15℃以下でピールアップ工法を行う場合、同梱のスペーサー(0.2mm厚)を切り取って使用してください。

タイルにガラス繊維が入っているため、通常のタイルよりもしっかりとカッターを入れてください。
壁際、柱まわりに使用するタイルは、垂直にカットし、1~2mmゆとりを持たせて、貼り付けてください。



7.圧着

施工後はボンローラーなどでよく圧着してください。
スペーサーの除去は圧着前に行ってください。
スペーサーをはずすタイミングが早いと、タイルがずれてしまう場合がありますので注意してください。

8.養生

施工直後はタイルの上をできるだけ通行しないようにするか、通気性のあるシートで表面を覆い、汚れが付かないようにしてください。
急激な温度変化によって、目地の突き上げや、表面の変退色が起こることがあります。

▶**注意** 直射日光が当たる場所ではカーテンなどで必ず日除けを行ってください。一般工法の場合は1週間程、耐湿・耐熱工法の場合は2日間程の養生が必要です。

リフォルタ框材・見切材 施工説明

■基本手順



■框(かまち)材

玄関などタイルの側面が横から見えてしまう場合にご使用ください。

1. 環境・下地の確認

施工時の環境(湿気・温度)を確認してください。
下地がモルタル下地の場合、十分に乾燥しているかを確認してください。
※下地の水分レベルはグレードI(水分計HI-520-2のD.MODEで440未満)としてください。
合板下地の場合、釘止めで、釘頭は良く打ちこんでであることを確認してください。下地のたわみや段差がないか確認してください。
砂や塵、埃等を除去し、適切な下地処理を行い、平滑でよく乾燥し、強固であることを確認してください。下地に不陸や隙間(フローリングの目地隙など)があるまま施工すると、施工後に框材の表面に不陸や隙の形状が陰影として映ることがあります。
貼り替えの場合、下地に残った接着剤はきれいに除去、または下地補修材で平滑に仕上げてください。
下地は新規もしくは施工可能な既存の上り框、床材に施工してください。

2. 清掃・下地補修

砂や塵、埃等を除去し、ひびやカケがあれば、適切な下地処理を行ってください。下地に不陸や隙間がある状態で施工すると、施工後に接着不良や段差、不陸の原因となります。

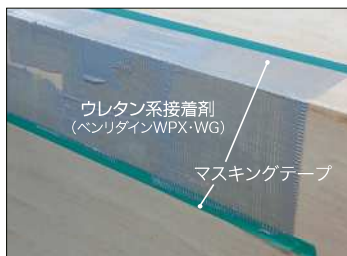
3. 框材のカット

框材を施工場所に合わせてカットしてください。

4. 接着剤の選択・塗布

【工法1】下地に接着剤を塗布する工法

余分な箇所に接着剤がはみ出さないようにマスキングテープを貼り、接着剤を塗布します。框部分は普段の生活の中でも荷重や負荷のかかる部分ですので、より接着強度のあるWPX(BB-479・480)・WG(BB-601・602・603)を使用してください。



【工法2】框材に接着剤を塗布する工法

框材に仮止め用に両面テープを角の溝部分から少し離れたところへ、溝の両側に貼ります。両面テープの離型紙に被るくらいに接着剤を塗布します。接着剤はWPX(BB-479・480)・WG(BB-601・602・603)を使用してください。また接着剤が商品の表側に付着しないよう注意してください。

*BB-302 両面テープ 標準価格(税別) 380円/20m巻



段鼻(角の部分)の補強

角に当たる段鼻部分は、特に負荷が掛かる場所ですので、工法1、2とも強度を上げるため、框材の裏面の溝に変成シリコン樹脂系シーリング剤、変成シリコン樹脂系または、シリル化ウレタン樹脂系接着剤を塗布してください。

*HSシール(BB-553~555、562~564、574)

*副資材(推奨品) ※以下の商品の同等品での施工が可能です。
セメダイン(株) スーパーXシリーズ(変成シリコン樹脂系接着剤)
コニシ(株) ウルトラ多用途SUシリーズ(シリル化ウレタン樹脂系接着剤)

5. 貼り合わせ・圧着

オープンタイムを取ってから、下地に框材を貼り合わせ、ローラーでよく圧着します。

6. リフォルタの施工

框を先に取り付けてからリフォームタイル「リフォルタ」の施工を行います。タイル用接着剤が框材に付着しないように養生をしてください。

■見切材

リフォルタの小口の処理にご使用ください。

※上から貼るだけで簡単に施工ができます。

①見切り材のカット

見切材を施工場所に合わせてカットしてください。

②貼り付け

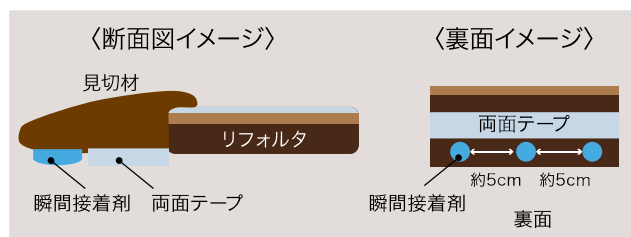
裏面の両面テープの離型紙を剥がし、約5cm間隔で瞬間接着剤を塗布してください。

*BB-546 ペンリサイン瞬間 標準価格(税別) 1,200円/本

*BB-589 ペンリサイン瞬間ゼリー 標準価格(税別) 1,550円/本

見切材をつなげて施工する場合は、見切材の断面にも瞬間接着剤を塗布してください。

ローラーでよく圧着してください。



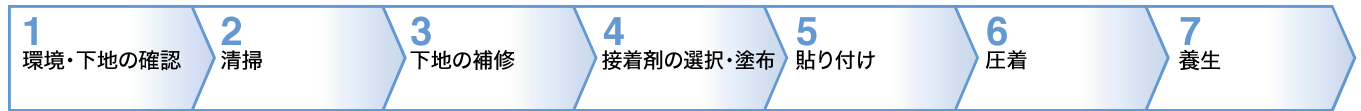
■注意事項

保管場所

高温場所(50℃以上)での保管は避けてください。

OT 置敷き帯電防止ビニル床タイル 施工説明

■基本手順



■OTの施工

1.環境・下地の確認

施工時の環境(湿気・温度)を確認してください。
 下地がモルタル下地の場合、十分に乾燥しているかを確認してください。
 ※下地の水分レベルはグレードI(水分計HI-520-2のD.MODEで440未満)としてください。
 合板下地の場合、釘止めで、釘頭は良く打ちこんでであることを確認してください。下地のたわみや段差がないか確認してください。
 砂や塵、埃などを除去し、適切な下地処理を行い、平滑で良く乾燥し、強固であることを確認してください。下地に不陸や隙間(フローリングの目地隙など)がある状態で施工すると、施工後にタイルの表面に不陸や隙の形状が陰影として映ることがあります。
 貼り替えの場合、下地に残った接着剤はきれいに除去、または下地補修材で平滑に仕上げてください。
 二重床の場合、下地パネルの段差は1mm以内・隙間は2mm以内に調整し、下地パネルがしっかりと固定されて動かないこと、たわまないことを確認してください。パネルの表面は凹凸の無いものを使用してください。
 下地パネルの種類や表面形状によってはOTの施工に適さない場合があります。

下地OAフロアに関して

固定式ではないOAフロアの場合、下地パネル自体が歩行や温度変化で動く場合があります。
 下地が動くことでタイルの突き上げや反り、目地隙やズレに繋がる場合があります。
 表面形状がフラットではなく凹凸があり、またメッシュ形状になっているなど、OTと接する面積が少ないOAフロアの場合、接着力が不足し接着不良に繋がる場合があります。

2.清掃

床が汚れ・ゴミ・塵などは接着剤の効力を弱め、クレームの原因に繋がるため、清掃をしっかりと行ってください。

3.下地の補修

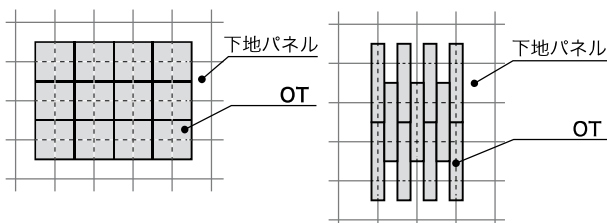
下地の確認を行った時点で、下地の亀裂や平滑でない部分は、床用の下地調整材で補修してください。

4.接着剤の選択・塗布(置き敷き工法の場合)

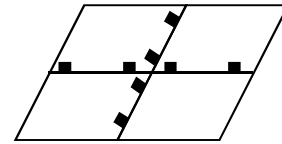
モルタルの場合:GT(BB-352・353)、GTS(BB-558・588)
 塗布量の目安は80g/㎡です。
 二重床の場合:GT(BB-352・353)、GTS(BB-558・588)
 塗布量の目安は40g/㎡です。
 ※接着剤塗布時は、スポンジローラー(中毛タイプ)を使用して下地全面に塗布してください。オープントイムは接着剤が半透明になるまでお待ちください。塗布量が少ないと、施工後に突き上げや目隙の原因となります。下地の吸水性や表面形状、歩行頻度に応じて塗布量を増やすなど調整してください。

5.貼り付け

室温にタイルを馴染ませてから低温時は『ゆるめ』に施工してください。
 タイルの詰めすぎは突上げの原因になりますので避けてください。
 二重床の場合は1/2ずらし施工(馬がけ施工)を行ってください。



15℃以下での施工の場合、同梱のスペーサーを切り取って使用してください。(目地の幅が等間隔となり、施工中のズレの防止にも役立ちます。)



タイル断面を斜めに切ると後日突上げる事がありますので垂直にカットしてください。

6.圧着

パンドローラーでの圧着時にスペーサーを外してください。
 スペーサーを外すタイミングが早いと、タイルがズレてしまう場合がありますので注意してください。

7.養生

施工直後は、タイルの上をできるだけ通行しないようにするか、通気性のあるシートで表面を覆い、汚れが付かないようにしてください。通気性のないシートは使用しないでください。
 直射日光が当る場所では、カーテンなどで必ず日除けをしてください。
 急激な温度変化によって、目地の突き上げや、表面の変退色が起こることがあります。

■注意事項

施工場所

サーバールームなどの高い電気性能を要する場所での使用は避けください。

施工前の商品養生

箱から出して積み重ね(最大10ケースまで)、平坦な場所で24時間以上室温に馴染ませてください。

保管場所

高温場所(50℃以上)での保管は避けください。

施工環境

施工環境温度は15℃以上を保ってください。

ハートビルマーカ―・テリトリーチップ 施工説明

■基本手順



■ハートビルマーカ―の施工-ワンタッチ工法

1.環境・下地の確認

モルタル・コンクリート下地・石材・磁器タイル・ガラスブロック・ビニル床タイル・ビニル床シート・フローリング・塗り床など平滑な床材に使用できます。ジェットバーナー仕上げの石やアスファルトなど凹凸のある床面や外部では使用できません。

2.清掃

床の貼り付け面をアルコールなどで拭き、ホコリ、汚れ、油分、水分を除去してください。

3.墨出し

取り付け位置を墨出ししてください。

4.プライマーの塗布

モルタルや磁器タイルなど粗面の床材に取り付ける場合は、取り付け位置に専用プライマーを塗布し、十分に乾燥させてください。ハートビルマーカ―の台紙はプライマーを塗布するゲージとして使用できます。

5.貼り付け

裏面のリケイ紙を剥がし、基準墨に合わせて貼ってください。寒冷地での施工は、チップ粘着面をドライヤーで温めて接着してください。

6.圧着・養生

台紙の表面より、全てのチップをゴムハンマーで軽くたたいて圧着し、台紙をゆっくり取り外してください。

■テリトリーチップ-ワンタッチ工法

1.環境・下地の確認

モルタル・コンクリート下地・石材・磁器タイル・ガラスブロック・ビニル床タイル・ビニル床シート・フローリング・塗り床など平滑な床材に使用できます。ジェットバーナー仕上げの石やアスファルトなど凹凸のある床面や外部では使用できません。

2.清掃

床の貼り付け面をアルコールなどで拭き、ホコリ、汚れ、油分、水分を除去してください。

3.墨出し

取り付け位置を墨出ししてください。

4.プライマーの塗布

モルタルや磁器タイルなど粗面の床材に取り付ける場合は、取り付け位置に専用プライマーをハケなどで塗布し、十分に乾燥させてください。

5.貼り付け

テリトリーチップ裏面のリケイ紙を剥がし、基準墨に合わせて貼り付けてください。

6.圧着・養生

指で十分に圧着してください。

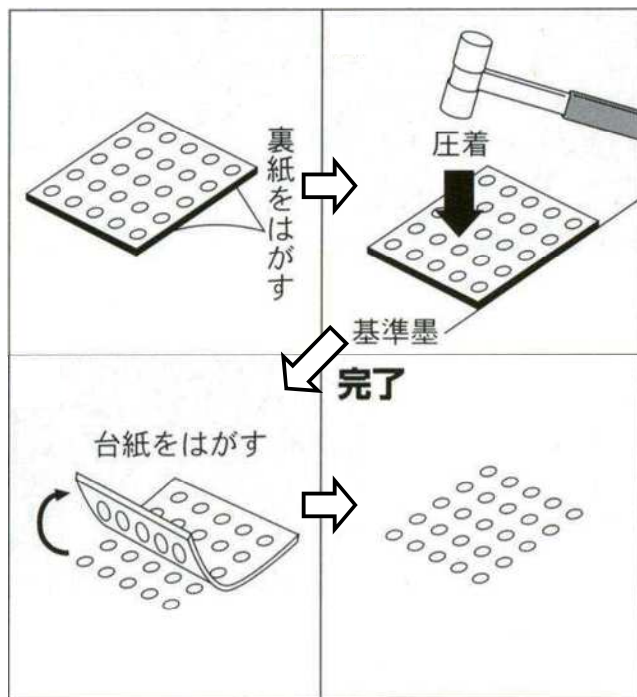
■注意事項(ハートビルマーカ―・テリトリーチップ)

屋内用です。(外部には使用できません)

石、磁器タイルなど目地がある下地の場合、目地をまたいで貼らないでください。目地上で使用する場合は下地補修材などでチップの貼り付け箇所にかかる目地を埋めて、更にプライマーを塗布してご使用ください。

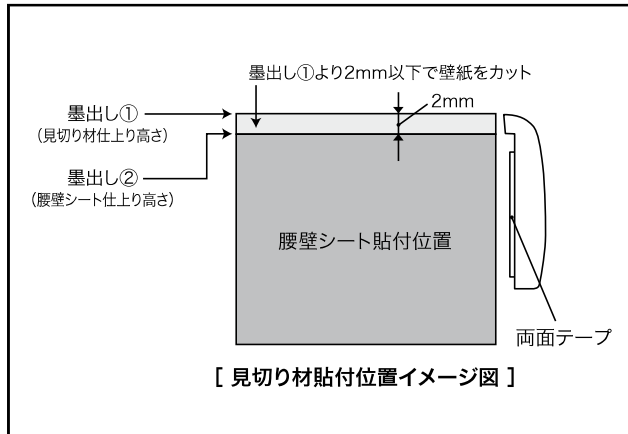
塗り床は施工可能ですが、塗装がよく密着していない場合は使用できませんので、試し貼りした上で確認してください。

テリトリーチップは床面が粗面の場合、専用接着剤を使用した接着工法をお勧めします。専用接着剤・専用プライマーに関しては弊社営業担当者までお問い合わせください。



腰壁シート 施工説明

■基本手順



1. 下地の確認・補修

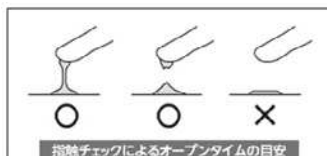
腰壁シートの厚みは1.1mmと薄いため、下地の不陸等の不具合があると、その部分がシート表面に発現します。
必ず下地にパテ処理等を行い、平滑な状態で施工してください。

2. 墨出し

- ①見切り材の仕上がり高さ(見切り材の上部位置)を設定し、墨をうってください(上図: 墨出し①)。
※施工後に拭き取れるようチョークリールをご使用ください。
- ②墨出し①の2mm下(=腰壁シートの仕上がり高さ)の位置へ水平に墨をうってください(上図: 墨出し②)。
- ③壁紙が貼られている場合、見切り材の仕上がり高さ(墨出し①)より2mm以下で壁紙をカットし、裏打ち紙まで剥がしてください。

3. 腰壁シートの貼り付け

- ①AR(BB-516・517)、PC-2(BB-576・577)を付属のヘラを用い、腰壁シートを貼り付ける壁面全体に塗布してください。
- ②墨出し線に合せ、シートを貼り付けてください。
- ③オープントイムは、気温や湿度条件によりタック発現時間が異なります。必ず指触による確認を行ってください。
- ④腰壁シートの厚みは1.1mmと薄いため、オープントイムを取り過ぎると、接着剤のくし目跡が凹凸の原因になり、シート表面に発現する恐れがあります。
- ⑤墨出し線②に合わせ、シートを貼り付けてください。
- ⑥巾木は、腰壁シートの上から貼り付けるため、腰壁シートは床まで施工してください。
- ⑦必ずスキージ・ローラー・しごき棒等で確実にエア抜きを行いながら、貼り付けてください。
- ⑧腰壁シートのジョイントは原則、入隅以外で行わないようにしてください。やむを得ず入隅以外でジョイントを行った場合には、重ね切りで処理してください。また、シートの継ぎ目処理は、パーフェクトシームジェルチューブ入り(BB-394)を注入してください。
※重ね切りを行う場合は、下地を傷めないよう必ず下敷きをご使用ください。



4. 見切り材の貼り付け(専用部材: ①~③、⑥)

- ①出隅材、入隅材を貼り付けます。(専用部材: ②、③)
墨出し①に沿って各部材を貼り付けてください。^{※1}必ずペンリデザイン瞬間ゼリー(BB-589)を塗布し、補強してください。
- ②見切り材(2000mm)を必要な寸法に正確にカットし、上記と同様に貼り付けます。ペンリデザイン瞬間ゼリー(BB-589)は200mm~300mm間隔で塗布して接着ください。
^{※必ず、ローラーで圧着して固定してください。圧着が不足すると見切り材の剥がれ、隙間の発生に繋がります。}
- ③見切り材同士の継ぎ目(断面部)にもペンリデザイン瞬間ゼリー(BB-589)を塗布して接着してください。
- ④必要に応じてエンド材を貼り付けます。施工方法は見切り材と同様です(専用部材: エンド材 ⑥)。
^{※見切り材(4.5mm厚)が建具等よりも厚い場合などは、見切り材の断面を隠すためエンド材を使用します。また、半裁することで左右でご使用いただけます。}

5. コーナー材の貼り付け(専用部材: 出隅用: ④、入隅用: ⑤)

- ①出隅材、入隅材の下部から床面までの長さを正確に測り、コーナー材をカットしてください。
- ②片方の剥離紙を剥がしてから、位置を決め、腰壁シート面にコーナー材の片側を貼り付けた後、もう片方の剥離紙を剥がし、隙間のないように十分に圧着してください。貼り付けたコーナー材の端部の浮きは、ペンリデザイン瞬間ゼリー(BB-589)を塗布して接着してください。

6. 巾木の貼り付け

巾木糊(BB-560・561)、FM-1(BB-578・579・580)を専用ヘラまたは巾木用樹脂ヘラを使用して施工個所に塗布し、オープントイムを取って貼り付け、よく圧着してください。接着剤のはみ出しには注意してください。

ビニル系床材メンテナンスガイド

一般的なビニル系床材のメンテナンス

一般ビニル

床材を長く美しくご使用いただくためには適切なメンテナンスが必要です。
歩行量や汚れの段階に応じた計画的なメンテナンスにより、床材の耐用年数を延ばすことができます。



注意事項

- 床材やご使用用途・目的に応じた洗浄剤やワックス、剥離剤、パッドをお選びください。
また、洗浄剤やワックス、剥離剤は製造元が推奨する使用方法を必ずご確認の上、ご使用ください。
- 床材とワックスとの密着性は商品によって異なります。各商品の推奨ワックスについては弊社営業担当者までお問い合わせください。
- ビニル床タイルの場合は目地から水、洗浄剤、ワックス、剥離剤がタイル裏面に入り込まないようにご注意ください。接着剤を無力化させ突き上げや反りなどの不具合、二重床の場合は配線やOA機材の不具合が発生する恐れがあります。モップに染み込ませる量を調整するなどご注意ください。

WF ワックスフリー ビニル系床材のメンテナンス



メガリット	グラニット
オデオンPUR	メディントーン



ナーシングフロア	ストロング	SKフロア	メディウオーク	OT
エスリューム・ジャトパッド	エスリューム・ミスト	エスリューム・ウィーブ	エスリューム・ファイバー	
エスリューム・ルーミー	エスリューム・プレーン	エスリューム・マーブル	消臭レストリューム	

ワックスを使用しないメンテナンスが可能です。
施設利用者や運営者はもちろん、環境にも負荷が少ない理想的な床材です。

初期 メンテナンス

使用前

- 引渡し前に付着した汚れを清掃、洗浄します。
※接着剤の完全硬化までは洗浄作業を行わないでください。



- ポリッシャー（磨き用パッド）で洗い磨きをしてください。
※洗い磨きをすることで汚れを落とすだけでなく、床材表面の平滑性が増し汚れにくくなりますので、日常メンテナンスが容易になります。

日常 メンテナンス

毎日 予防清掃

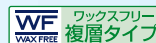
- 床材上の土砂が歩行で引きずられることで、床材に傷が入ります。出入口へのフロアマットの設置により土砂の持ち込みと拡散を防ぎます。マットはこまめに除塵、交換してください。

毎日 日常清掃

- ダスタークロスや掃除機でチリや埃を除去した後、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- ヒールマークなどの落ちにくい汚れは、水または洗浄剤を含ませたモップやウエスなどで拭き取ってください。
- 状況に応じ自動床洗浄機などで洗浄を行ってください。



- 傷が目立つようになってきたら、自動床洗浄機で洗い磨きをしてください。目安は歩行量の多い場所で週1回から2週間に1回程度です。



- 光沢や汚れの状況に応じてワックスメンテナンスに切り替えてください。
- ワックスメンテナンスへの切り替え後は、一般的な長尺シートと同じメンテナンスとなります。

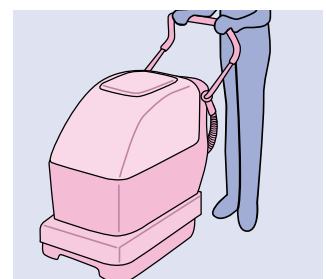
注意事項

- 床材やご使用用途・目的に応じた洗浄剤やワックス、剥離剤、パッドをお選びください。
また、洗浄剤やワックス、剥離剤は製造元が推奨する使用方法を必ずご確認ください。
- 床材とワックスとの密着性は商品によって異なります。各商品の推奨ワックスについては弊社営業担当者までお問い合わせください。
- ビニル床タイルの場合は目地から水、洗浄剤、ワックス、剥離剤がタイル裏面に入り込まないようにご注意ください。接着剤を無力化させ突き上げや反りなどの不具合、二重床の場合は配線やOA機材の不具合が発生する恐れがあります。モップに染み込ませる量を調整するなどご注意ください。

永久 ワックスフリー機能が再生する単層シート

機能再生

メガリット・グラニット・オデオンPUR・メディントーンは粒子のたいへん細かい素材を使用しているため、表面に凹凸が少なく汚れや薬品が入り込みにくくなっています。
使用中の摩耗により表面に凹凸が生じても、自動床洗浄機での洗浄やバフingによって表面を滑らかに整えることで、ワックスフリー機能が再生します。



初期
メンテナンス

ビニル床材の施工直後は、初期の汚れを防止することが大切です。床材施工後はキズがつかないように、必ず養生を行ってください。土足での通行を禁止し、接着剤が完全に乾燥・硬化するまで十分な養生期間を取った後に、**初期メンテナンス**を行います。

手 順

一般ビニル



- ① 接着剤が完全に硬化していることを確認してください。
- ② ダスタークロスや掃除機などで床面を掃除し、チリや埃を除去してください。
- ③ 接着剤やヒールマークなどの汚れは、床材の表面を傷つけないようにスクレイパーやハンドパッドで取り除き、水または洗浄剤を含ませたモップやウエスなどで拭きとってください。

一般ビニル



- ④ 希釈した洗浄剤を床面にモップで塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。洗浄剤で取れにくい汚れはアルコールなどで除去します。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗浄剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

※ビニル床タイルの場合は水や洗浄剤がタイル目地に入り込まないように注意してください。

- ⑤ 乾燥後、樹脂ワックスを用いて仕上げを行います。この際、ビニル床タイルの場合は洗浄作業と同様、ワックスがタイル目地から浸入しないようにモップに染み込ませる量を調整するなど注意してください。塗布回数は歩行頻度やご使用用途により異なりますが、2～3回を推奨します。

※初期メンテナンスの際、洗浄不足や乾燥不足によりワックスをはじいてしまう等、密着不良を起こすことがあります。初期の洗浄をしっかりと行い、ビニル床材と密着性の良いワックスを選定することが大切です。

- ⑥ 塗布が終わったら十分に乾燥させます。完全に乾燥するまで通行を禁止してください。

- ④ 施設使用前にポリッシャー（磨き用パッド）で洗い磨きをしてください。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗浄剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

※洗い磨きは汚れを落とすだけでなく床材表面の平滑性が増し、汚れにくくしますので、日常メンテナンスが容易になります。

- ④ 希釈した洗浄剤を床面にモップで塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。洗浄剤で取れにくい汚れはアルコールなどで除去します。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗浄剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

※ビニル床タイルの場合は水や洗浄剤がタイル目地に入り込まないように注意してください。

※洗浄で使用する水や洗浄剤の量が少ないと、床面に不具合を発生させる恐れがありますのでご注意ください。

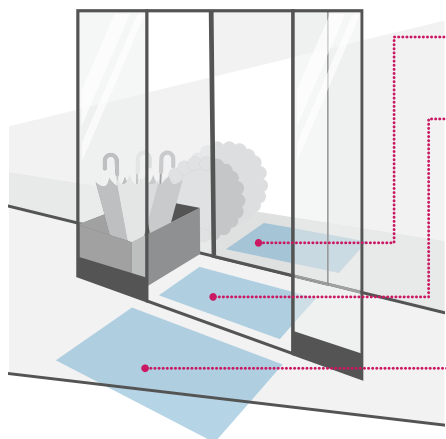
予防清掃

日常
メンテナンス

日常メンテナンスのポイントは、「**汚れる前に予防清掃をする**」ことです。施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。靴底に付着した泥・砂などが施設内に持ち込まれ、汚れが拡散します。このため、施設まわりの日常清掃も大切です。エントランスには以下の**3段階のマット設置が汚れの持ち込み防止に効果を発揮**します。

手 順

一般ビニル



- ① まず玄関の外に雨・風耐型用のマットを置き、外からの泥・砂などをふり落としします。

- ② 次に風除室内に雨の日の水分まで吸着するマットを敷きます。

- ③ 最後に施設内に汚れ・埃・水分吸着用マットを敷きます。

来訪者が施設内に入るまでに、外からの泥・砂を自然に歩いて落とすには、**約6mの除塵スペース**が必要であると言われています。なるべく広範囲にわたってフロアマットを設置することが、施設内部への汚れの持ち込みを防ぎます。

※マットが汚れて泥・砂が飽和状態のまま放置すると逆にマットの汚れが内部に入ってきますので、マットは常に清掃してください。毎日のバキュームと月1回の水洗いをオススメします。

日常
メンテナンス

日常清掃

日常清掃では、**汚れがひどくなる前に汚れの原因を取り除く**ことが長期にわたる美観維持につながります。

手 順

一般ビニル



- ① ダスタークロスや掃除機でチリや埃を除去した後に、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。雨天時はエントランス付近を重点的に行ってください。
- ② 落ちにくい汚れは、水または洗剤を含ませたモップやウエスなどで拭き取ってください。洗剤でも落ちない汚れは、アルコールなどで除去してください。また洗剤やアルコールを使用した場合は、必ず水拭きをしてください。
- ③ 状況に応じ希釈した洗剤を床面にモップで塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し乾燥させてください。

※広い面積での作業には自動床洗浄機を使用いただくと効率的です。
※ビニル床タイルの場合は水や洗剤がタイル目地に入り込まないように注意してください。



※傷が目立つようになってきたら、自動床洗浄機で洗い磨きをしてください。目安は歩行量の多い場所で週1回から2週間に1回程度です。
洗い磨きが終わったらモップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。
※洗い磨きは汚れを落とすだけでなく床材表面の平滑性が増し、汚れにくくします。



※光沢や汚れの状況に応じてワックスメンテナンスに切り替えてください。
※ワックスメンテナンスへの切り替え後は、一般的ナビニル系床材と同じメンテナンスとなります。

※ポリッシャーや自動床洗浄機が入らないコーナー部や壁際は、水または洗剤をつけ固く絞ったモップで清掃してください。使用後は洗剤をモップなどで水拭きをし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

※洗浄で使用する水や洗剤の量が少なく、床面に不具合を発生させる恐れがありますのでご注意ください。

※床材の状況に応じたパッドをお選びください。

定期
メンテナンス

日常メンテナンスでは除去できない汚れが堆積してきたら、**定期メンテナンス**を行ってください。

手 順

一般ビニル

- ① ダスタークロスや掃除機などで床面を掃除し、チリや埃を除去してください。
- ② 希釈した洗剤を床面にモップで塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。更にきれいな水で床面を水拭きし乾燥させます。この際にビニル床タイルの場合は水や洗剤がタイル目地に入り込まないように注意してください。
- ③ 均一にワックスを床面に塗布します。この際にビニル床タイルの場合は洗浄作業と同様、ワックスがタイル目地から浸入しないようにモップに染み込ませる量を調整するなど注意してください。
- ④ 乾燥したら2回目の塗布を行います。摩耗や歩行量の多い部分は同様に乾燥させた後に3回目の塗布を行います。
- ⑤ 塗布が終わったら十分に乾燥させます。完全に乾燥するまで通行を禁止してください。

特別
メンテナンス

汚れがワックスの内部に及んだり、塗膜が黄変や粉化した場合に**ワックスの剥離と再塗布作業**を行います。

手 順

一般ビニル

- ① ダスタークロスや掃除機などで床面を掃除し、チリや埃を除去してください。
- ② ワックスの面積に応じてモップで剥離剤を均一に塗布し、剥離剤が十分浸透してからポリッシャーなどで完全に剥離させます。この際にビニル床タイルの場合は剥離剤がタイル目地から浸入しないように、モップに染み込ませる量を調整するなど注意してください。
- ③ 汚水はスキージーなどで回収・除去してください。床面が乾かないうちにきれいな水で水拭きし、乾燥させます。
- ④ 床面の乾燥を確認した後に、ワックスの塗布を行います。以下作業は定期メンテナンス③～⑤と同じです。

注意事項

床材やご使用用途・目的に応じた洗剤やワックス、剥離剤、パッドをお選びください。また洗剤やワックス、剥離剤は製造元が推奨する使用方法を必ずご確認ください。

床材とワックスとの密着性は商品によって異なります。各商品の推奨ワックスについては弊社営業担当者までお問い合わせください。

ビニル床タイルの場合は目地から水、洗剤、ワックス、剥離剤がタイル裏面に入り込まないようにご注意ください。接着剤を無力化させ突き上げや反りなどの不具合、二重床の場合は配線やOA機材の不具合が発生する恐れがあります。モップに染み込ませる量を調整するなどご注意ください。

ノンスキッドメンテナンスガイド

日常 メンテナンス

予防清掃

建物内の汚れの80%は外から運び込まれます。靴底に付着した泥・砂などが建物内に持ち込まれ、それが建物内の床材にキズを付け、汚れも拡散します。

- 建物内の美観を維持するためには、エントランスやエレベーター前等に防塵マットを敷き、外部から汚れが持ち込まれないように配慮してください。

日常清掃

日常清掃のポイントは『汚れる前に予防清掃をする』ことです。汚れがひどくなる前に汚れの原因を取り除くことで、長い期間の美観維持につながります。

- ①防塵マットに入り込んだ砂やチリ、埃などを掃除機にて回収してください。
- ②掃除機やほうきなどで床面を掃除し、砂やチリ、埃などを除去してください。
- ③指定倍率に薄めた洗浄剤を床面にモップなどで塗布し、デッキブラシで擦り、水を流します。しつこい汚れにはスカットクリーナー(BB-477)を使用してください。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗浄剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

定期 メンテナンス

日常のメンテナンスでは除去できない汚れが堆積したら、定期メンテナンスを行ってください。

- ①掃除機やほうきなどで床面を掃除し、砂やチリ、埃などを除去してください。
- ②指定倍率に薄めた洗浄剤を床面にモップなどで塗布し、日常清掃で取り除ききれない汚れをポリッシャーで洗浄して取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗浄剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

※屋外や半屋外でご使用の際は、ワックスの塗布はお避けください。但し、必要に応じてワックスメンテナンスを行う場合、ワックスを塗布する前に凹凸部に溜まったゴミ・埃を除去してください。また凹部にワックスが留まると黒ずんで汚れて見えることがあるため、ワックスを通常の床材より控えめに丹念に薄く塗布してください。

※使用年数が経過するにつれ、水垢が蓄積されることがありますので、定期的に水垢除去の洗浄を行うことをおすすめします。

【注意事項】

床材やご使用用途・目的に応じた洗浄剤やパッドをお選びください。その際、洗浄剤は製造元が推奨する使用方法を必ずご確認の上、ご使用ください。

ノンスキッド・エアコン排水目地(中空タイプ)メンテナンスガイド

1.水圧によって砂や埃などを取り除く

- 付近の水道蛇口よりホースを繋げ、ホース受け口にホースを差し込み、水圧をかけるようにして水を流し込んで砂や埃などを押し出してください。

※水圧が強すぎたり、水量が多すぎると、ホース受けより水が溢れだしますのでご注意ください。
(溢れ限界水量は750ml/分となります。※勾配1/100、スロープの長さ1,500mmの場合)

2.風圧によって砂や埃などを取り除く

- エアリールが使用可能な場合、ホース受け口よりエアーを流し込み、砂や埃などを押し出してください。

3.開口部付近の砂や埃などを取り除く

- ノンスキッド・エアコン排水目地(中空タイプ)の出口部分に砂や埃等がたまった場合は、細い針金等を使用して、掻き出すように砂や埃などを取り除いてください。

※硬いもので砂や埃などを掻き出す場合、製品を傷つけないようにご注意ください。

4.洗浄剤を使用する(水垢・しつこい汚れ)

- 水垢やしつこい汚れ(上記1~3の方法ではとれない場合)は洗浄剤の使用をおすすめします。

洗浄剤の一例：ジェルタイプのパイプクリーナー(アルカリ性)

成分：次亜塩素酸塩、水酸化ナトリウム(5%)、界面活性剤(アルキリアミンオキシド)

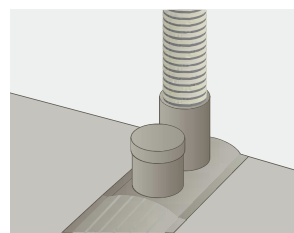
【洗浄剤使用方法】

- ①洗浄剤100ml~300mlをホース受けよりエアコン排水目地(中空タイプ)へ流し込む(洗浄剤ボトル裏面の使用方法を参照してください)。
- ②30分~60分放置し、その後水をホース受けよりエアコン排水目地(中空タイプ)へ流し込み、洗浄剤を洗い流す。

【洗浄結果】

水や風圧では落としかねない水垢や汚れに効果的です。

※効果は汚れの状態によって異なります。



ルームプラス・ココフロア メンテナンスガイド

繊維状のビニルを織り込んだ独特な構造の床材です。
長く美しくお使い頂くために定期的なメンテナンスをおすすめいたします。

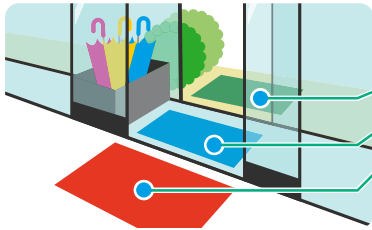
予防

メンテナンス

施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。泥・砂・コンクリート粉・煤煙・アスファルトなどが靴底に付着し、それが施設内の床材に転移して汚れが拡散します。このため、施設の中だけでなく駐車場・連絡通路・外構回り歩道の清掃をこまめに実施する日常清掃が大切です。



3段階のマット設置が汚れの防止に効果を発揮



①まず玄関の外に雨・風耐用品のマットを置き、外からの泥・砂などをふり落としします。

②次に風除室内に雨の日の水分まで吸着するマットを敷きます。

③最後に施設内に汚れ・埃・水分吸着用マットを敷きます。

外から施設内まで来訪者が自然に歩いて泥・砂を落とすには、約6mの除塵スペースが必要であると言われています。なるべく広範囲にわたってマットを設置することが施設内部の床材の汚れを防ぎます。

※マットが汚れて泥・砂が飽和状態のまま放置すると逆にマットの汚れが内部に入ってきますので、マットは常に清掃しておきます。毎日のバキュームと月1回の水洗いをおすすめします。
※大きなマットは重量があり、めくれにくいですが、バリアフリーを推進するためには初期床工事仕上げの時に、マットの厚み分床の仕上高を低くする必要があります。

初期

メンテナンス(施工完了後)

土足での通行を禁止し、床面を保護して接着剤が完全に乾燥・硬化するまで十分な養生期間を取り、初回のメンテナンスを行います。



初期メンテナンス手順

- ①乾式ダスターモップや掃除機を使用して埃やゴミを除去し、床面をきれいに掃除してください。
- ②床面に付着したヒールマークや接着剤などの汚れは、床材の表面を傷つけないようにナイロンブラシやハンドパッドで取り除き、水または洗剤を含ませたウエスなどで拭き取ってください。洗剤で取れにくい汚れはアルコールなどで除去し、その後モップなどで水拭きします。汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去して乾燥させてください(洗剤成分が残っていると汚れが付着しやすくなります)。
- ③温水(40℃程度)を使用し、自動床洗浄機で洗浄してください。柔らかいパッド、またはブラシを低圧で使用し、洗剤を使用する場合はアルカリ洗剤を希釈してください。(ココフロアは中性洗剤を使用してください。)凹凸に入り込んだ汚水は湿式掃除機(バキューム)で完全に回収し、水拭きして乾燥させてください。
- ④洗浄後、必要に応じてワックスを塗布します。**(ココフロアはワックスを使用できません)**
事前に床面が乾燥しているかを確認してから作業してください。ワックスが乾くまでは通行を禁止してください。

※清掃機器は床材の目の方向に沿ってご使用ください。 ※自動床洗浄機が入らないコーナー部や壁際はモップやハンドパッドで清掃してください。
※自動床洗浄機の水、洗剤の量が少ないと洗浄ムラや床材の不具合が発生する恐れがありますのでご注意ください。※洗剤の希釈は製造元が推奨する希釈率をご確認ください。

日常

メンテナンス

日常メンテナンスのポイントは、「汚れる前に予防清掃をする」ことです。
床面にこびり付いた汚れを取り除くには大変な時間と労力を要し、床面もきれいになりません。
汚れがひどくなる前に汚れの原因を取り除くことが長期的にわたる美観維持につながります。



日常メンテナンス手順

- ①乾式ダスターモップや掃除機で埃やゴミを取り除いてください。雨の日はエントランス付近を重点的に、固く絞ったモップでぬれている部分を拭き取ります。
- ②ヒールマークなどの落ちにくい汚れは、水または洗剤を使用し、ナイロンブラシやウエスなどで取り除いてください。洗剤でも落ちない汚れは、アルコールなどで除去してください。また洗剤やアルコールを使用した場合は、必ず水拭きをしてください。
- ③歩行頻度や汚れの状況に応じて、温水(40℃程度)または洗剤を使用し、自動床洗浄機で洗浄してください。柔らかいパッド、またはブラシを低圧で使用し、洗剤を使用する場合はアルカリ洗剤を希釈してください。(ココフロアは中性洗剤を使用してください。)凹凸に入り込んだ汚水は湿式掃除機(バキューム)で完全に回収し、水拭きして乾燥させてください。
- ④洗浄後、必要に応じてワックスを塗布します。**(ココフロアはワックスを使用できません)**
事前に床面が乾燥しているかを確認してから作業してください。ワックスが乾くまでは通行を禁止してください。歩行頻度や汚れの状況に応じて、1ヶ月に1回程度の表面洗浄と、6ヶ月に1回程度のワックス塗布を定期的の実施してください。汚れが取りきれなくなってきたらワックスを剥離し、十分に洗浄のうえワックスを再塗布してください。

※自動床洗浄機が入らないコーナー部や壁際はモップやハンドパッドで清掃してください。※ドライバフィングやバニッシングを行うと、床面の凹凸部が局部的に削られて不具合が生ずる場合があります。
※洗剤の希釈は製造元が推奨する希釈率をご確認ください。

カーペットタイル メンテナンスガイド

長期間美しく維持管理していくためのメンテナンス方法をご紹介します。

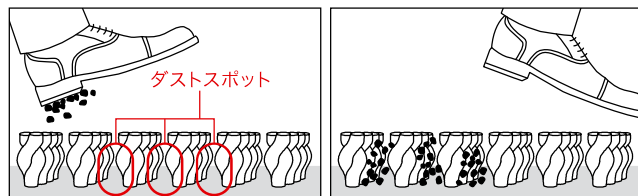
■予防メンテナンス

出入りにマットの設置(マットメンテナンス)

- 商業(来客)施設の場合、施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。
- 泥・砂・コンクリート粉・煤煙・アスファルトなどがお客様の靴底に付着し施設内のカーペットタイルでぬぐい去られます。外からの汚れを食い止めるのが、玄関マットです。
- まずは、玄関の外に、雨・風耐用型のマットを置きます。次に、風除室内に、雨の日の水分まで吸着するタイプのマットもしくはダストコントロールカーペットタイルを敷きつめます。なるべく広範囲に渡るマット類の使用が、施設内部の汚れを防ぎます。この玄関部のマット類が汚れて、泥・砂が飽和状態のまま放置すると効果は半減し、逆にマット類の汚れが内部に入ってきます。マット類が泥・砂を常に吸着しやすいように、常に、マット部も清掃しておきます。

■カーペットタイルの汚れの原因

カーペットタイルの汚れの80%は外部から持ち込まれます。お客様が自然に歩いて泥・砂を落とすには、約6mの除塵スペースが必要であると言われています。



※ダストスポット:パイルの間にある汚れを蓄積する場所

1.日常メンテナンス

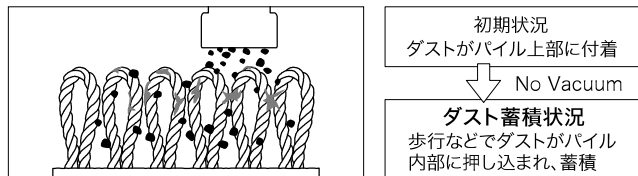
衛生維持を目的とします。(目安:毎日)

【表-A】

日常メンテナンス 汚れの分類例		
毎日のバキュームでドライソイルは除去します。		
1	砂、粘土	30~40%
2	酸化物、炭酸化合物	6~24%
3	炭素、カーボン	0~3%
4	髪の毛、動物の毛	10~12%
5	繊維、植物物質(綿ほこり)	10~12%

※【表A・B・C】の1~5 が乾いた粒子で通常80%~90%を占めます。その他 6・7・8 の割合は少ないものの、著しく美観を損ねる原因となり、より高度なクリーニング技法が必要となります。

日常メンテナンスの重要性



掃除機バキューム

汚れの80%は乾いた粒子の汚れです。毎日のアップライトバキュームで除去。(出入り口付近は縦、横と2回かけてください)



シミ取り(早期発見→対処が重要です)

シミを見つけたら、カーペット専用洗剤を霧吹き等で散布し乾いたウェスで吸着させてください。

2.中間メンテナンス

衛生環境の改善を目的とします。(目安:3ヶ月~半年/回)

【表-B】

中間メンテナンス 汚れの分類例		
少量の洗剤で油汚れやドライソイルを除去します。		
1	砂、粘土	30~40%
2	酸化物、炭酸化合物	6~24%
3	炭素、カーボン	0~3%
4	髪の毛、動物の毛	10~12%
5	繊維、植物物質(綿ほこり)	10~12%
6	湿気	2~4%
7	ガム、樹脂	6~10%

※【表A・B・C】の1~5 が乾いた粒子で通常80%~90%を占めます。その他 6・7・8 の割合は少ないものの、著しく美観を損ねる原因となり、より高度なクリーニング技法が必要となります。

クリスタルクリーニングの実施例



バキューム

特殊洗剤散布

ロータリー

ブラシ洗浄

汚れを吸着した

洗剤を回収

- 中間メンテナンス工法/日常メンテナンスでは落ちない汚れを少量の特殊洗剤やスチームで除去します。

- ・パウダークリーニング ・ボンネットクリーニング
- ・ドライフォームクリーニング

※状況によりメンテナンスの頻度は異なりますので、必ず専門業者へご確認ください。

3.定期メンテナンス

蓄積してしまった汚れの除去を目的とします。(目安:半年~1年/回)

【表-C】

定期メンテナンス 汚れの分類例		
カーペット専用洗剤と水または温水で除去します。		
1	砂、粘土	30~40%
2	酸化物、炭酸化合物	6~24%
3	炭素、カーボン	0~3%
4	髪の毛、動物の毛	10~12%
5	繊維、植物物質(綿ほこり)	10~12%
6	湿気	2~4%
7	ガム、樹脂	6~10%
8	タール、オイル、油脂	3~8%
9	その他、未確定物質	1~3%

※【表A・B・C】の1~5 が乾いた粒子で通常80%~90%を占めます。その他 6・7・8 の割合は少ないものの、著しく美観を損ねる原因となり、より高度なクリーニング技法が必要となります。

- 定期メンテナンス工法/カーペット専用洗剤で洗浄後にリンスして復元、蘇らせる工法が特徴。

- ・ロータリークリーニング ・スチームクリーニング
- ・エクストラクション

※衛生消毒薬品は必ず目立たない所でサンプリングをしてください。

※状況によりメンテナンスの頻度は異なりますので、必ず専門業者へご確認ください。



洗剤を出しながら

洗浄



水または温水でリンス

→乾燥

※詳しいメンテナンス方法は、カーペットタイルメンテナンスの知識と経験を持つライセンスに合格したクリーニングテクニシャンにご相談してください。

【日本カーペットクリーナーズアカデミー JCCA】
www.japan-carpet.com

フロテックス メンテナンスガイド

高密度にナイロンパイルを植毛したフロテックスは、耐久性・防水性・速乾性に優れる商品です。日常メンテナンスと定期メンテナンスを実施することで長期にわたって美観を維持することが可能です。

日常
メンテナンス

予防清掃

- 施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。靴底に付着した泥・砂などが施設内に持ち込まれ、汚れが拡散します。このため、施設まわりの日常清掃も大切です。エントランスには以下の3段階のマット設置が汚れの持ち込み防止に効果を発揮します。
 - ①まずは、玄関の外に、雨・風耐用型のマットを置きます。
 - ②次に風除室内に雨の日の水分まで吸着するマットもしくはダストコントロールカーペットタイルを敷きつめます。
 - ③最後に施設内に汚れ・埃・水分吸着用マットを敷きます。
- ※マットが汚れて泥・砂が飽和状態のまま放置すると逆にマットの汚れが内部に入ってきますので、マットは常に清掃してください。毎日のバキューミングと月1回の水洗いをおすすめします。

日常清掃

- 日常清掃のポイントは、「汚れる前に予防清掃をする」ことです。汚れがひどくなる前に汚れの原因を取り除くことが長期にわたる美観維持につながります。
 - ①アップライトバキュームで埃やゴミを取り除いてください。
 - ②汚れや染みはきれいな水もしくは温水(40℃)を使用して取り除いてください。水や温水で落ちない場合は、希釈した中性洗剤を使用してください。
 - ③水分や洗剤を完全に除去し乾燥させてください。



A.まず最初にスクレイパーなどで出来るだけ汚れを掻き集めて取り除いてください。



B.水(必要に応じて少量の洗剤)を用いて、ブラシなどで汚れた部分を十分に擦り、汚水を雑巾などで吸い取ってください。



C.最後に綺麗な水(またはお湯)を用いてリンスしながら、スクレイパーなどで汚水を集めて雑巾で吸い取ってください。必要に応じて数回繰り返してください。

定期
メンテナンス

- 日常メンテナンスで除去できない汚れが堆積してきたら、定期メンテナンスを行ってください。
 - ①アップライトバキュームで埃やゴミを取り除いてください。
 - ②希釈した洗浄剤を噴霧器等で塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除いてください。
 - ③残った汚水、洗浄液はウエットバキュームやエクストラクターで回収して乾燥させてください。

※P.481のカーペットタイルメンテナンスガイドも合わせてご参照ください。

キャスターによる床材への影響について

近年、病院及び介護施設などで使用されている医療用ベッドのキャスターが床材と接触する部分に、膨れや破損が発生する事例が報告されています。



独自試験による検証の結果、キャスターにロックを掛けた状態での人の乗り降りによって繰り返し生じる寸動、あるいはベッドの移動・回転などによるねじれの力の発生など、さまざまな要因が複合的に作用したものと考えられます。

この事象につきましては今後も多角的な検証・改善が必要ですが、当面、同様の事象の発生を軽減するために有効と思われる対策を以下にご紹介します。

●商品選定においては使用環境を考慮し、できる限り耐動荷重性能の高い床材をご選定ください。

●施工の際は、下地が平滑で十分に乾燥した状態であり、十分な強度があることを確認してください。必要に応じて、荷重用EPプライマー（BB-600）を塗布してください。一般的な下地水分レベルと施工方法の目安の組み合わせは下表の通りですが、特に日常的な重量物の移動・搬送などによる負荷が想定される場所に関しては、下地の水分レベルがグレードⅠの場合でも、**エポキシ・ウレタン樹脂系接着剤**を適切な塗布量で使用し、十分に圧着してください（より接着強度に優れるEP-300をおすすめします）。

水分計*			水分計以外での確認方法		施工方法の目安
グレード	選択 D.MODE	従来の水分指標	ポリエチレンフィルム	バーナー	
I	440未満	8%以下	24時間後変化なし	下地表面に変化なし	一般工法
Ⅱa	440以上620未満	8%～10%	24時間後黒ずみ（輪郭不明瞭）	下地表面が黒ずむ	耐湿工法
Ⅱb	620以上	10%以上	24時間後に変色結露が見られる	下地表面に水滴が浮く	施工不可

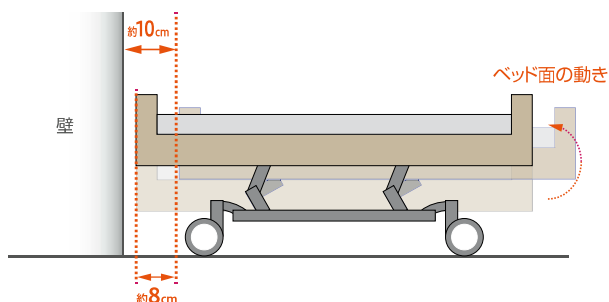
*使用水分計：株式会社ケット科学研究所 高周波静電容量式水分計「HI-520-2」D.MODE選択による

●ベッドの取り扱いには、ベッドメーカーの定める取り扱い説明書の内容に従って正しくご使用ください。

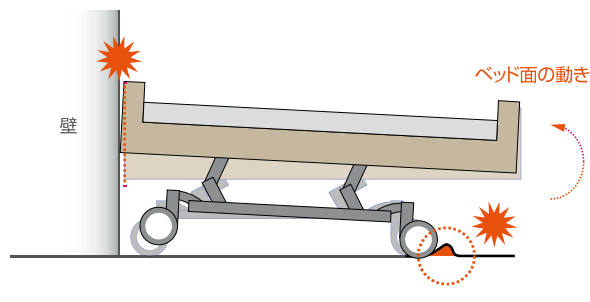
- 例
- ・壁面から適切な距離（目安10cm）を開けて設置してください。
 - ・キャスターをロックしたままベッドをずらしたり動かしたりしないでください。



壁から離れる方向に最大で約8cm
押し出される動きに対応できるスペース。



ベッドの高さが中間位置で設置され壁との距離がない場合、昇降時に押し出される動きによって、ロックされたキャスター部分と床面に負荷がかかる。



●ベッドのキャスターが接地する部分に当て板を用いることで床材にかかる負担を軽減できます。

ただし、これらの対策も床材の膨れ、破損を確実に防止できるものではなく、あくまでも問題の発生を軽減する方法のひとつとしてご認識ください。

床材に求められる「耐動荷重性」と「衝撃吸収性」の両立は、現時点では非常に困難なものと言わざるを得ませんが、弊社では今後も引き続きこの問題解決に向けた検証や商品開発に取り組んでまいります。

床材を安心してご使用いただくために

床材には素材ごとの性質があります。以下に素材別の一例を紹介します。事前にご確認いただくことで事故防止につながります。

■ビニル系床材のゴム汚染

ゴム製品に含まれる油や老化防止剤などがビニル系床材表面に移行し、茶色や黄色に変色する現象です。ゴム製品の油や老化防止剤とビニル系床材に含まれる可塑剤が反応して発生します(荷重の度合いによっても異なります)。

ビニル系床材とゴム製品の間に保護シート(アルミ製・ポリエステル製)を使用し、直接接触させないことで変色を防ぐことができます。

■下地からの汚染

ワックス・グリス・油脂類・塗料などの「汚れ」や、ペン・ラッカー・チョークなどによる「マーキング」が下地に残留していることにより、接着不良や汚染・変色が発生する可能性があります。

また、配管用接着剤が下地に残留していることにより変色が発生する可能性もあります。

これらは、施工前に下地から完全に除去いただくことで、上記不具合を防ぐことができます。

■フロアタイルの突き上げ

フロアタイルには温度変化で伸縮する特性があります。接着剤が十分な接着力を発揮する前に、急激な温度変化(低温から高温)によってフロアタイルが伸び、突き上げる場合があります。

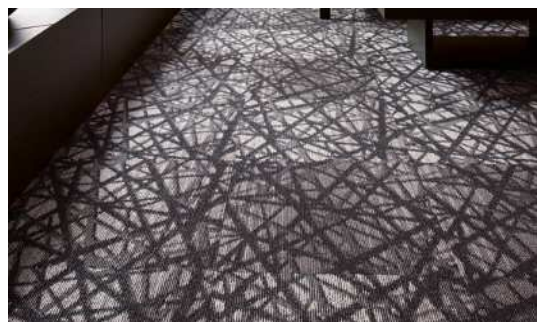
低温時(10℃以下)の対策として、室内をジェットヒーターなどで暖める、また現場の室温を一定にしてフロアタイルを室温になじませ直射日光を遮断するなど、施工中や施工後の養生期間中の現場の室温を一定に保つようにしてください。



■カーペットタイルのジョイント

主に柄物カーペットタイルは、ロール状の原反をランダムに 50cm 角等の規格サイズに裁断するため、1 枚 1 枚の色柄に変化と濃淡の差があり、その割合が異なります。

施工後、仕上がりに違和感がある場合は、部分的に入れ替えを行なっていただき、全体のバランスをとってください。



■繊維床材のくも現象

カットパイルの商品は施工後に波状・雲状・島状のムラに見える部分が発生することがあります。これは「くも現象」「シェーディング」と呼ばれ、その部分のパイルが他の部分と異なった方向に倒れることにより、光線等の影響を受けムラに見える現象です。商品の欠陥ではなく、パイル形状の特性による外観上のものであり、品質に影響を及ぼすものではありません。

対策方法としては、ループパイル及びカット&ループパイル商品、またはカットパイルであれば強撚糸のフリース糸タイプ(サンフリースなど)の商品を選定いただくことで目立ちにくくなります。



Sフロア・Hフロア・ノンスキッド取扱上のご注意

選択上のご注意

- 製品の耐久性は歩行量、使用環境によって異なります。選択の際には製品の耐久性以上の用途のご使用は避けください。
- 建築基準法・消防法によって、使用方法ならびに使用場所に制限があります。各法令法規をご確認ください。
- 病院・福祉施設など抗菌性を求められる場所では、抗菌マークのある製品をお選びください。人体に影響が少ない抗菌剤を使用していますが、乳幼児が誤って経口する可能性のある場所でのご使用は避けください。
- 淡色系・無地調の床材ほど濃色系に比べて汚れが目立ちやすく、濃色系の床材は光の乱反射により、傷が目立ちやすくなる場合があります。また、フラットな表面形状に比べてエンボスが深いほど汚れが残りますのでお含みください。

運搬ならびに保管上のご注意

- 重量物ですので取り扱いには十分ご注意ください。落下や乱暴な取り扱いは、床シートの破損だけでなく、傷害や器物破損などを招く場合があります。
- 縦置きの場合は、ロープなどで固定し、転倒防止を図ってください。横置き保管の場合は、積み重ねをお避けください。
- ご注文の際は、長さが9m巻(約45kg)を超える場合、配送が困難になりますのでご相談ください。

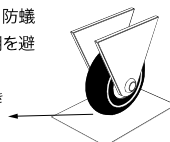
施工上のご注意

- 梱包紙に記載されている品名・品番・ロット・数量をご確認のうえ、施工を開始してください。同一床面上は、同ロットで仕上げてください。
- 幅継ぎをする際は、耳部どうしでジョイントしてください。
- 目地入りの製品をジョイントして施工する際、製品の特性上目地が合わない場合がありますので、特に広い面積で施工する場合には割り付けにご注意ください。
- 各商品別に、施工上の注意事項・接着剤・ワックスなどが異なりますので、商品掲載ページの施工上の注意をご参照ください。また施工する場所の環境や下地の状態により、接着剤や施工方法が異なる場合がありますのでご注意ください。
- 下地は平滑かつ清潔で乾燥して、良好な圧縮及び引張り強度があり、接着力を低下させるような構造的欠陥がないようにしてください。多孔質でもよい下地や粉っぽい下地はプライマー処理を行ってください。
- 不陸は適切なコンパウンドで補修してください。
- 鋳物ベースの下地(モルタル・コンクリートなど)で、新規あるいは土間床の場合は下地水分を測定してください。コンパウンドや接着剤は床仕上げ材と同様に適切な皮膜もしくはその他の方法で高い残留水分や下地の湿気から遮断しておく必要があります。
- 下地にワックス・グリス・油脂類・塗料などの汚れ、ペン・ラッカーによるマーキング、配管用接着剤などが残っていると、接着不良や汚染、変色を発生させる可能性がありますので、完全に除去してください。
- 床材は現場の室温によくなじませてから施工してください。室温と床材に温度差があると、施工直後だけでなく、後日、目地隙・突き上げなどをおこすことがあります。
- 接着の際は、床材の指定接着剤を使用し、接着剤指定のくし目こてで均一に塗布し十分に圧着してください。
- 重量物の移動が想定される場合、下地水分グレードがⅠ(一般工法レベル)の場合でもウレタン・エポキシ樹脂系接着剤をご使用ください。
- 有機溶剤を含んだ接着剤を使用する場合は、火気に注意し、室内の換気に心がけ、有機溶剤作業主任者立ち会いのもとで行ってください。有機溶剤は、引火しやすく、また多量に吸入すると人体に影響を及ぼす可能性があります。
- 施工中は、他業種による汚損・事故の発生を防ぐために、床工事関係者以外の立ち入りを禁止してください。
- 施工後、接着剤が十分硬化するまでは、直射日光や冷暖房などによる急激な温度変化は避けください。特に低温時(10℃以下)は接着剤の硬化が遅くなりますので十分な養生期間をとってください。
- 施工直後に養生シートを使用した場合、床シートと養生シートの間に結露水や水蒸気・溶剤蒸気などがこもり、床シートの反り・突き上げなどが生じる可能性があります。養生シートは、接着剤が十分硬化してから使用してください。
- 養生シートをとめる際、粘着テープは直接床材に貼り付けないでください。床材を汚染する原因となります。
- これらの施工条件が満たされない場合は、目地隙きや膨れなどを招く可能性があり、美観を損ねるだけでなく、転倒事故などの原因となります。
- 施工後、残材などを廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託してください。包装紙・紙管などを焼却する場合は、都道府県条例に基づき処分してください。ビニル床材を燃やすと有害ガスが発生する場合があります。

維持管理ならびに使用上のご注意

- 床シートは、熱によって変退色・溶融する可能性があります。たばこや、車輪の摩擦熱、火花の飛び散りなどは避けください。
- 温風ヒーター吹き出し口にはマットを設置するなどして、温風が直接シート表面に当たることをお避けください。
- 重量物や車輪のしごきによって、床シートの表面を傷つけたり、膨れを発生させる可能性があります。引きずったり、にじらないようにご注意ください。
- 長期間使用しない部屋では換気を心がけてください。結露を招き、カビや異臭の発生、床シートの剥がれ・膨れの可能性があります。
- 素材固有の臭いがあります。換気を心がけてください。
- 床材の汚れのほとんどは水拭きでとれます。ほうきや掃除機でゴミを取り除いた後に、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- しつこい汚れは、スカットクリーナーで洗浄し、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- 各床材に応じたメンテナンスを行うことにより汚れもつきにくく、より長く美観が保てます。ワックスにより床材との相性が異なりますので、選定の際にはご注意ください。
- 水漏れや砂が飛散した状態では滑りやすくなり、転倒事故を招く可能性があります。泥よけマットの設置などで雨水や土砂の持ち込みを防ぎ、持ち込まれた際には即座に除去するようにしてください。
- 長時間直射日光が当たる場所では、変退色する可能性がありますので、カーテン・ブラインドなどで日よけをしてください。
- 家具やハイヒールなどの局部荷重により凹み跡が残る場合があります。
- インクやソース、化学薬品などをこぼしたときは、すぐに濡れたぞうきんで拭き取ってください。
- 化学薬品や強い作用をもつ洗剤、漂白剤などにより、変退色や変質を招く場合があります。
- 水・砂・紫外線・重量物・汚染物質・化学薬品・塩分・鉄粉・鉄サビなどの影響で、床材自体の変質・変退色や白化、施工後の膨れ・剥がれ・目地隙などがおこる場合があります。維持管理には十分ご注意ください。
- ゴム製品に含まれる老化防止剤、家具の塗料や防腐剤・防虫剤・防蟻剤によって、床材が汚染され変退色する可能性があります。使用を避けるか、床に直接ふれないようにしてください。

タイヤなどのゴム製品が床材と接するとき保護シート(アルミ製・ポリエステル製)



ノンスキッドマークの説明



フラット

フラットなのにすべりにくい。
車椅子やベビーカーの移動もスムーズです。



かんたん

汚れが取りやすい。すべりにくさと
汚れの取りやすさを両立しました。



使用可

耐候性に優れる。ルーフバルコニーなど
屋根のない場所にも使用できます。



耐薬品

一般的な液体肥料や殺虫剤などによる変色や
材質の変化が起きにくく、耐薬品性に優れます。



グリーン購入法
適応商品

再生ビニル樹脂系材料の合計重量が、
製品の総重量比で15%以上使用された
グリーン購入法適応商品です。



JIS
適合品

日本工業規格「JIS A 5705ビニル系床材」に
定められた性能を満たしています。

フロアタイル取扱上のご注意

選択上のご注意

- フロアタイルの耐久性は歩行量、使用環境によって異なります。選択の際には製品の耐久性以上の用途でのご使用はお避けください。
- 建築基準法・消防法によって、使用方法ならびに使用場所に制限があります。各法令法規をご確認ください。
- 下地からの湿気の上昇や、摩擦熱や火花の飛び散りが予想される場所では使用をお避けください。
- 淡色系・無地調の床材ほど濃色系に比べて汚れが目立ちやすくなります。また濃色系やフラットな表面形状はキズが目立ちやすく、エンボスが深い、あるいは細かいほど汚れが残りますのでお含みおきください。
- 商品特性上、コンポジションタイルは角が欠けやすく若干丸くなることがありますのでお含みおきください。
- 家具の下などの暗所、密閉されるような環境、高温多湿、酸性ガス（NOx、SOx）などの条件が揃うと床材が変色する場合があります。これらの条件が揃わないよう注意し、やむを得ずそのような箇所に施工する際には暗色系の床材を選定してください。

運搬ならびに保管上のご注意

- 重量物ですの取り扱いには十分ご注意ください。落下や乱暴な取扱いはフロアタイルの破損だけでなく、傷害や器物破損などを招く場合があります。
- フロアタイルは梱包を解かず平坦な場所に保管してください。積載は高さ70cmを限度とします。積み過ぎ、長時間にわたる直射日光や高温状態、雨水などによる水濡れは、変形・変退色・変質の原因となります。

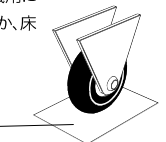
施工上のご注意

- 梱包ケースに記載されている品名・品番・ロット・数量を確認のうえ、施工を開始してください。同一床面上は同ロットで仕上げてください。
- タイル裏面の矢印で流れ方向をご確認ください。方向が変わると色差のように見える事があります。
- 各商品別に施工上の注意・接着剤等が異なりますので、商品掲載ページの施工上の注意をご参照ください。また施工する場所の環境や下地の状態により、接着剤や施工方法が異なる場合がありますのでご注意ください。
- 下地は平滑かつ清潔で乾燥して、十分な強度があり、接着力を低下させるような構造的欠陥がないようにしてください。多孔質でもよい下地や粉っぽい下地はプライマー処理を行ってください。
- 不陸は適切なコンパウンドで補修してください。
- 木質系下地の目地部、凹み、釘頭部は適切なコンパウンドで補修してください。床材表面への継ぎ目段差や凹み跡の現出、釘に使用された防錆剤等により床材を変色させる恐れがあります。
- 木質下地に含まれる防虫剤や防腐剤により床材を変色させる場合がありますのでご注意ください。
- 鉱物ベースの下地（モルタル・コンクリートなど）で、新規あるいは土間床の場合は下地水分を測定してください。コンパウンドや接着剤は床仕上げ材と同様に適切な皮膜もしくはその他の方法で高い残留水分や下地の湿気から遮断しておく必要があります。
- クッション性の大きな下地にフロアタイルを施工すると沈み込みによる段差や端部のめくれ、層間剝離などの不具合が生じる場合があります。
- 下地にワックス、グリス、油脂類、塗料などの汚れ、ペン、ラッカーによるマーキングなどが残っていると、接着不良や汚染、変色を発生させる可能性がありますので、完全に除去してください。
- フロアタイルや接着剤は施工時の温度に大変影響を受けやすく、低温時は特に接着剤の接着力が弱くなり完全接着までには時間がかかります。理想的な施工温度は15～25℃ですが、それよりも気温が低い場合はジェットヒーターなどの暖房機で現場を暖めるなどして、施工の前後12～24時間はこのような気温を保ち、フロアタイルも箱から出して現場と同様の気温に保管し、ならす必要があります。室温と床材に温度差があると施工直後だけでなく、後日、目地隙、突き上げなどをおこすことがあります。
- 接着の前にフロアタイルを一旦仮置きして、色柄の偏りがないか確認のうえ施工してください。
- 接着の際は、床材の指定接着剤を使用し、接着剤指定のくし目こてで均一に塗布し十分に圧着してください。
- 重量物の移動が想定される場合、下地水分グレードがⅠ（一般工法レベル）の場合でも、耐湿工法用接着剤をご使用ください。
- 有機溶剤を含んだ接着剤を使用する場合は火気に注意し、室内の換気が心がけ、有機溶剤作業主任者立ち会いのもとで行ってください。有機溶剤は引火しやすく、また多量に吸入すると人体に影響を及ぼす可能性があります。
- 床暖房下地の場合は、下地づくりから含めた施工上の注意と接着剤の選定が必要となります。
- コンパネ、二重床、塗床、タイルの重ね貼りなどの非吸水性下地の場合は、反応形接着剤（ペンリタインWPX等）を使用し、接着剤の乾燥を促進させる必要があります。
- タイル同士に若干の寸法差が生じる場合があります。目地ずれが大きくならないうちに調整しながら施工してください。
- 施工中は他業種による汚損・事故の発生を防ぐために、床工事関係者以外の立ち入りを禁止してください。
- 施工後、接着剤が十分硬化するまでは通行を制限し、直射日光や冷暖房などによる急激な温度変化や、重量物やキャスター椅子などによるしこきなどは避けてください。特に冬季は接着剤の硬化が遅いので十分な養生期間をとってください。
- 施工直後に養生シートを使用した場合、フロアタイルと養生シートの間に結露水や水蒸気、溶剤蒸気などがこもり、フロアタイルの反り・突き上げなどが生じる可能性があります。養生シートは、通気性のあるものを使用し、接着剤が十分硬化してから使用してください。
- 養生シートをとめる際、粘着テープは直接床材に貼り付けしないでください。床材を汚染の原因となります。
- これらの施工条件が満たされない場合は、目地隙きや突き上げ、膨れなどを招く可能性があります。これらは美観を損ねるだけでなく、転倒事故などの原因となります。
- 施工後、残材などを廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託してください。梱包ケースなどを焼却する場合は、都道府県条例に基づき処分してください。ビニル床材を燃やすと有害ガスが発生する場合があります。

維持管理ならびに使用上のご注意

- フロアタイルは熱によって変退色・溶融の可能性があります。たばこや車輪の摩擦熱、火花の飛び散りなどは避けてください。
- 温風ヒーター吹き出し口にはマットを設置するなどして、温風が直接フロアタイル表面に当たることを避けてください。ホットカーペットなど暖房器具の熱が長時間にわたりに加わると、変質や変色、突き上げや膨れの原因となります。
- 重量物や車輪のしこきによって、フロアタイルの表面を傷つけたり膨れを発生させる可能性があります。引きずったり、にじらないようご注意ください。
- 長期間使用しない部屋では換気を心がけてください。結露を招き、カビや異臭の発生、フロアタイルの剥がれ・反り・膨れ・突き上げの可能性があります。
- 素材固有の臭いがあります。換気を心がけてください。
- 接着剤が完全に硬化してから水の使用をできるだけ抑えながら表面の汚れを洗浄し、乾燥した後に樹脂ワックスを塗布してください。洗浄が不足するとワックスとの密着性が悪くなる場合があります。
- 床材の汚れの多くは水拭きでとれます。ほうきや掃除機でゴミを取り除いた後に、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- トイレでご使用の際には汚れを放置すると尿素焼け等を起こす場合がありますので、こまめに掃除を行ってください。
- しつこい汚れは、スカットクリーナーで除去し、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- 竣工後は使用環境に応じた日常の清掃・洗浄と定期的なワックス掛けを行ってください。ワックスは必ず指定のワックスまたは同等品をご使用ください。
- ドライメンテナンスを行なう際はメンテナンス業者へご確認願います。
- 水濡れや砂が飛散した状態では滑りやすくなり、転倒事故を招く可能性があります。泥よけマットの設置などで雨水や土砂の持ち込みを防ぎ、持ち込まれた際には即座に除去するようにしてください。フロアタイルの摩耗、傷つきを防ぎ美観を保持するだけでなく、寿命を延ばす効果があります。
- 長時間直射日光があたる場所では変退色する可能性がありますので、カーテン・ブラインドなどで日よけをしてください。
- 家具やハイヒール等の局部荷重により凹み跡が残る場合があります。
- インクやソース、化学薬品などをこぼしたときは、すぐに濡れたぞうきんで拭き取ってください。
- 化学薬品や強い作用をもつ洗剤、漂白剤などにより、変退色や変質を招く場合があります。
- 水・砂・紫外線・重量物・汚染物質・化学薬品などの影響で、床材自体の変質・変退色や、施工後の反り・膨れ・剥がれ・目地隙などがおこる場合があります。維持管理には十分ご注意ください。
- タイルの剥がれ、反り、膨れ、割れなどが生じた場合、即座に補修してください。放置しておく全体に影響が及び、美観を損なうほか転倒事故の原因となります。
- ゴム製品に含まれる老化防止剤、家具の塗料や防腐剤・防虫剤・防蟻剤によって、床材が汚染され変退色する可能性があります。使用を避けるか、床に直接触れないようにしてください。

タイヤなどのゴム製品が床材と接するとき
保護シート（アルミ製・ポリエチレン製）



各フロアタイル別の取扱上のご注意

ラウンドエッジ

- ラウンドエッジの素材感を活かし、長く美観を維持するためにパーフェクトコークを使用した目地剤施工をしてください。（施工費が割増になる場合があります。）
- 詳細な施工方法につきましては、タイルの梱包ケースに記載してあります。別途「施工要領書」も用意してあります。
- トイレなど常に水がかかる場所や、キャスター付き重量物が移動する場所でのご使用はお避けください。

レリーフ

- エンボス段差部分の汚れはブラシ等で除去してください。
- 洗浄時には毛足の短いブラシやパッドを使用し、湿式掃除機（バキューム）で汚水を回収してください。
- ワックス塗布の際は事前に床面の乾燥状態を確認し、ワックス溜まりや塗布ムラにご注意ください。

ファインメタル

- アルミシートが入った特殊構造のため、やや硬く一度くせがつくと戻りにくいの取り扱いにご注意ください。
- 下地の不陸に影響されやすいので、平滑さには特に留意してください。低温時にはより硬くなり、下地になじみにくいため寒冷地や冬の施工には現場を暖房するなどの処置を行ってください。
- トイレなど常に水がかかる場所や、キャスター付き重量物が移動する場所でのご使用はお避けください。

カーペットタイル取扱上のご注意

選択・施工上のご注意

- 下地から絶えず湿気の上昇がありえる場所では使用を避けてください。施工後に剥がれや臭気が発生する恐れがあります。
- 写真見本と製品の色が若干異なる場合がありますのでご了承ください。
- 柄物(ストライプ含む)の商品を流し貼りにする場合、それぞれ柄の出方が異なりますので柄は合いません。
- ライン柄の商品を市松貼りにする場合、デザイン上、コーナーのつぎ合わせがずれて見えます。
- 防汚マークは製品の防汚性を示す目安です。用途に応じた防汚性カーペットタイルをお選びください。
- 歩行マークは歩行頻度に対する耐久性の目安です。用途に応じたカーペットタイルをお選びください。
- 梱包ケースに記載されている品名・色番・ロット・数量をご確認の上、施工を開始してください。同一床面上は同ロットで仕上げてください。
- 施工後しばらくは色ムラに見えることがあります。これはパイルの倒れ具合によるものであり、徐々に解消されます。
- 下地は湿気のない平坦かつ堅牢なものとし、適切な施工環境を維持してください。施工環境が整わなかった場合、目地隙や突き上げ、膨れ、臭気などを招く場合があります。
- コンクリート系の下地の場合、そこにアルカリ性の過剰な水分(水分率8%以上)があると、塩ビ樹脂中に含まれる可塑剤が加水分解し、異臭(アルコール系)が発生する場合があります。施工前に必ず水分率を確認し、水分率が高い場合は充分乾燥させてください。
- 各商品の指定接着剤をご使用ください。
- 目地にパイルを挟まないようにご注意ください。目地隙や段差の原因となります。
- 膝タイルは天然素材の為、色調や材質にばらつきが生じますのでご了承ください。また、伸縮による反りや耐水を踏まえて、WPXにて施工してください。
- 下地の汚れを完全に除去して施工してください。接着不良のおそれがあります。
- 市松貼り、流し貼りの選択は、商品ごとの推奨施工方法をご参照ください。
- 推奨施工方法以外で施工すると、目地の出方が不自然に目立つ場合があります。施工前に必ずご確認ください。
- 流し貼りで、柄の並びや目地の仕上がりに違和感がある場合は部分的に差替えてください。
- オゾンを発生させる空気清浄機が使用される場所や窒素酸化ガスの影響をうけやすい場所等ではパイルが変色する場合があります。
- 素材固有の臭いがあります。特に施工直後は換気を心掛けてください。
- カーペットタイルは繊維と塩ビの商品です。急激な温度変化は目地隙、突き上げの原因となりますので、室温になじませてから施工を開始し、施工中は急激な環境変化のないようにしてください。

カーペットタイル機能性マークの一覧



日本防災協会の防災性能試験に合格したものです。サンゲツカーペットタイルはすべて防災認定品です。



通行量が中程度の場所に適しています。応接間、ホテルの客室・レストランなどの一般家庭から業務用です。



パイルやラテックス等に帯電防止加工をした、又は繊維自体に制電性能を有した素材を使ったカーペットタイルです。



通行量の多い場所に適しています。学校、病院、銀行、オフィスなどの業務用です。



ソイルガード(SoilGuard)は、撥水・撥油処理がしてありますので、汚れをうけつけにくくなっています。



2005年2月からカーペットタイルもグリーン購入法特定調達物品に指定されています。リサイクル材使用率25%以上(製品重量比)を使用した商品につけられます。



ソイルハイド(SoilHide)は、繊維の異形構造が、光を反射、吸収、透過させ、汚れが目立ちにくくなっています。



グリーンラベルプラスは、米国のカーペット・ラグ協会「CRI」が定める室内空気環境基準に適合した商品につけられる認証マークです。



抗菌試験 JIS L 1902 結果に基づき殺菌活性値3.2以上をクリアした商品です。

カーペットの耐久性について(歩行マーク)

製品の素材・パイルの目付・耐摩耗性のデータなどから総合的に判断し、重歩行・中歩行・軽歩行の3段階にランク分けしています。(自社基準)

保管上のご注意

- カーペットタイルは梱包を解かず、平坦な場所に、ずらさずに保管してください。積み過ぎや雨水などによる水濡れを避けてください。変形・変色・変質・汚染・パイルの損傷の原因となります。

使用上のご注意

- カーペットタイルの剥がれ、反り、膨れなどが生じた場合は即座に補修してください。放置しておく全体に影響が及び、美観を損なうほか、つまりで転ぶ可能性があります。
- カットパイルは、使用中にパイルの方向が部分的に異なり、雲状の色むらのように見えることがあります。この現象はカットパイルの性質であり、品質の欠陥ではありません。
- NT-1150を水廻りなどでご使用の際は、直接水がつかないようにマット等を設置し、こまめにマットの取替えをおこなってください。
- ゴム製品や家具などの保護用ゴム材・塗料・防腐剤・殺虫剤などによって、カーペットタイルが汚染され変色をまねく恐れがあります。
- 家具の脚やハイヒールなどの突起物による局部荷重はへこみ跡やバックング部分の損傷の原因となります。
- 長時間直射日光が当たる場所では、パイルが変色する可能性があります。カーテン、ブラインドなどで日よけしてください。

メンテナンスについて

- 汚れに応じて水または中性洗剤を薄めたもので洗い流し、よく乾かしてからもとの位置に戻してください。
- 塩素系の洗剤や化学薬品でパイルが変色するおそれがあります。
- ダストコントロールタイル(NT-1000、NT-1050、NT-1100)については、ダストポケット効果を維持するため、定期的に掃除機でメンテナンスを行なってください。
- 汚れがどうしても落ちない部分は新しいタイルと交換してください。

antron. 

©2019 INVISTA. All Rights Reserved.

アントロンおよびアントロン商品群のマークとロゴはインビスタ社の商標です。

カーペット取扱上のご注意

選択上のご注意

- 歩行マークは歩行頻度に対する耐久性の目安です。用途に応じたカーペットをお選びください。なお、ピンヒールシューズはカーペットにより負荷をあたえますので、商品の選択には、十分ご注意ください。
- 防ダニ、抗菌などの表示は加工処理の有無を示しています。カーペット等、内装材だけでお部屋を完全に防ダニ、抗菌にすることはできません。お掃除や換気など、日常のメンテナンスに配慮してください。また、人体に影響の少ない薬剤を使用していますが、乳幼児が誤って口に含むことのないようご注意ください。
- ウールやアクリルなどに代表される紡績糸使いのカーペットは遊び毛が出ますが、これは品質上の欠陥ではありません。遊び毛の出にくいカーペットを望まれる場合はナイロンやポリプロピレンなど、フィラメント糸を素材としたものやループパイルのカーペットをお選びください。
- 写真見本と製品の色が異なる場合がありますが、ご了承ください。
- 濃色のカーペットはチリやホコリが目立ちますのでご注意ください。
- カーペット（特にタフテッドカーペット）は巾方向に若干の蛇行が見られます。織り構造の商品の持つ製法上の特性としてご理解ください。

保管上のご注意

- 運搬途中では折らないでください。折れジワが残ったり、施工後の「伸び」の原因となる可能性があります。
- カーペットは梱包を解かず、平坦な場所に寝かせて保管し、上にものを積載しないでください。また雨水などによる水濡れを避けてください。変形、変質、変色、汚染、弛みやパイルのへたりなどの原因となります。

施工上のご注意

- 下地から絶えず湿気の上昇がありえる場所では使用を避けてください。施工後に臭気が発生する恐れがあります。
- 梱包紙に記載されている品名、色番、ロット、数量をご確認の上、施工を開始してください。同一床面上は同ロットで仕上げてください。サンライム、サントパース等の後染め商品をジョイントする際は、色違いの発生を防ぐ為に、ロールの端部分と端部分で継いでください。
- 天然素材であるウールは紫外線や酸素に触れる事で、開封後すぐに若干の色変化を起こします（晒し現象）。ジョイントする場合は、同一床面は同日中に仕上げ、数日にわたる場合はジョイント部分に覆いをかけるなどの対策を行ってください。
- フェルトグリッパー工法の場合はピン先をつぶしてください。けがの原因となります。
- 延伸工具で四方均等にテンションをかけて施工してください。延伸が不十分だと施工後にたわみが発生する可能性があります。

カーペット機能性マーク一覧



日本防災協会の防災性能試験に合格したものです。ブライトシャギーは非防災です。



パイルやラテックス等に帯電防止加工をしたカーペット、又は繊維自体に制電性能を有した素材を使ったカーペットです。



パイル糸を糸洗いすることにより、より鮮やかで深みのある色彩が得られます。



ブリティッシュウールマーク
英国羊毛を50%以上使用し、英国羊毛公社(BWMB)の品質基準に合格したカーペットです。



ニュージーランド羊毛公社の厳しい品質基準に合格したカーペットです。



(一社)繊維評価技術協議会の基準をみたし、抗菌防臭性能あるいは、制菌性能を有することを表すマークです。

抗菌防臭加工繊維上の意の効果を証明し防臭効果を示します。

●試験方法：繊維製品の定量的抗菌性試験方法（JIS 1902:2002）マニュアルに定める方法とする。



ソイルガード(Soil Guard)は、撥水・撥油処理がしてありますので、汚れをうけつけにくくなっています。



ソイルハイド(Soil Hide)は、繊維の異形断面構造が、光を反射、吸収、透過させ、汚れが目立ちにくくなっています。



安全性・持続性に優れた防ダニ・抗菌加工を基布に施したカーペットです。



抗菌試験 JIS L 1902 結果に基づき殺菌活性値3.2以上をクリアした商品です。



ダニの増殖を抑制する加工をした商品です。



床暖房のフローリングの上にも貼り付け可能な商品です。

使用上のご注意

- カーペットの弛み、めくれ、ジョイントのほつれなどが生じた場合は、即座に補修してください。放置しておくと全体に影響が及び、美観を損なうほか、転倒事故を招く可能性があります。特に階段での弛みなどは、つまづきによる転倒事故に繋がりますので注意が必要です。
- パイルがほつれた場合、ほつれの伝染を防ぐ為にすぐにハサミでカットしてください。
- カットパイルは使用中にパイルの方向が部分的に異なり、雲状のムラのように見える事があります。「くも」現象やシェーディング(日陰・明暗)と呼ばれるものであり、パイルが長く、濃い色合いのカーペットに起こりやすい現象です。これはカットパイルの性質であり、品質の欠陥ではありません。
- パイル組成表示が「ウール・アクリル・ポリエステル」の商品は紡績糸(短繊維を絡め攪り合わせた糸)を使用しており、その特性上、しばらくの間、遊び毛が出ます。また、紡績糸使いのカーペットの日常のメンテナンスは、掃除機の回転ブラシはなるべく使用せず、吸引を主体に行ってください。
- ※特に「紡績糸使い」で「カットパイル」の商品はご注意ください。
- 長時間直射日光の当たる場所では、パイルが褐色を帯びたり、退色する可能性があります。必ずカーテン、ブラインドなどで日よけをしてください。
- タフテッドカーペットに使用している合成ゴム(ラテックス)は臭いを発生させることがあります。通常数日間十分な換気を行うことで解消されます。
- 素材には固有の臭いがあります。特に新しく施工した際は、臭いが発生しやすいので換気を心掛けてください。
- 木床など滑りやすい床面上に置き敷きする場合は、すべり止めテープ(別売)、すべり止めシート(別売)などをご利用ください。
- 巻き癖が残っている場合がありますが、時間の経過と共に解消します。
- 結露水はパイルを変色させたり、カビを発生させる原因となります。こまめに換気するなど、結露を防ぐ工夫をしてください。
- 防虫剤、殺虫剤、消臭剤を直接カーペットに散布すると、パイルが変退色することがあります。
- 天然素材である麻やウールは、素材の性質上、色落ちする場合がありますので、ご注意ください。
- ゴム製品や家具などの保護用ゴム、塗料、防腐剤、防虫剤などによって、カーペットが汚染されて変退色をまねく恐れがあります。
- 家具のあしやハイヒールなどの突起物による局部荷重はへこみ跡やジュート部分の損傷の原因となります。
- 湿気が低いと静電気が発生しやすくなります。加湿器を使用するなど、湿度調整を行ってください。

メンテナンスについて

- 汚れはカーペット用の中性洗剤をご使用の上、たたくように拭き取ってください。その後で洗剤を残さぬよう、かたく絞ったタオルで水拭きしてください。塩素系の溶剤はパイルが変褐色する恐れがあるので、ご使用を避けてください。尚、汚染物質によっては除去不可能なものもあります。
- 汚れが付着したらできるだけ早く除去してください。時間が経過するほど、除去しにくくなります。

カーペットの耐久性について(歩行マーク)

製品の素材・パイルの目付・耐摩耗性のデータなどから総合的に判断し、重歩行・中歩行・軽歩行の3段階にランク分けしています。(自社基準)



通行量の少ない場所に適しています。居間、寝室、子供部屋などの一般家庭用です。



通行量が中程度の場所に適しています。応接間、ホテルの客室・レストランなどに適しています。



通行量の多い場所に適しています。学校、病院、銀行、オフィスなどの業務用です。

antron. 

©2019 INVISTA. All Rights Reserved.
アントロンRおよびアントロンR商品群のマークとロゴはインビスタ社の商標です。

ウッドフロア取扱上のご注意

選択上のご注意

- 屋外・土足歩行箇所でのご使用は避けください。また屋内でも浴室や脱衣室など水がかかる場所でのご使用は、カビの発生や腐食、変色、剥がれなどの原因となりますのでお避けください。
- 天然木を用いておりますので1枚1枚すべて色柄が異なります。施工される前に1度仮敷きをして全体の色柄のバランスをご確認ください。
- 表示の遮音性能は厚さ150mmのコンクリートスラブの試験空間で測定したものです。実際の住まいにおける数値は、建物の構造や内装仕上げの種類、家具の状態など建物の条件や住宅周辺の環境など様々な条件によって異なります。
- 天然木の性質上、床材の継ぎ目部分がすれて音が発生したり、床材の継ぎ目のスキ・反り・突き上げなどが発生する場合がありますので、お含みおきください。

運搬ならびに保管上のご注意

- 重量物ですので取り扱いには十分ご注意ください。落下や乱暴な取扱いは、床材の破損だけでなく、周辺への傷害や器物破損などを招くおそれがあります。

施工上のご注意

- 施工の際は必ず同梱の施工説明書をご覧ください。
- 接着剤は必ずWF (BB-377) をご使用ください。
- 床暖房の上に施工する場合は、床暖房機材メーカーの説明書をよくご覧になってから施工してください。
- 施工後、残材などを廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託してください。梱包ケースなどを焼却する場合は、都道府県条例に基づき処分してください。

使用上のご注意

- 天然木の性質上、長時間直射日光が当たる場所では、変退色する可能性がありますので、カーテン・ブラインドなどで日よけをしてください。
- キャスター付きの椅子、家具は使用しないでください。使用する場合は必ずマット、カーペットなどで保護してください。
- 重い家具や電化製品などを置く場合、緩衝材を敷くなどして重量が分散するようにしてください。また家具などを動かす際は、引きずらずに持ち上げて移動してください。

ベンリダイン取扱上のご注意

選択上のご注意

- 各種内装材に適した接着剤を、現場環境（気温、湿度、下地種類、下地状態）や使用目的に応じて選択してください。
- 接着剤の選定にあたってはP411～412「床用接着剤と床材の組合せ」とP435～436下地の確認STEP1吸水性と下地の種類・STEP2下地の乾燥状態の判断方法、弊社各種見本帳に記載している推奨接着剤をご参照ください。

運搬ならびに保管上のご注意

- 重量物なので、取扱いには十分ご注意ください。容器に漏れのないことを確かめ、落下や乱暴な取扱いは避けてください。また、荷崩れの防止を確実に行ってください。
- 輸送に関しては、消防法・船舶安全法などの法規に従った運送方法で行ってください。
- 凍結・直射日光を避け、容器を密閉し、5～35℃の室内で保管してください。一度開封した後に保管する場合は、密閉して保存し、早めにご使用ください。
- 幼児・児童の手の届かないところに保管してください。

使用上のご注意

- ご使用前に必ず商品容器・梱包に記載している使用上の注意事項をご確認ください。
- 用途以外には使用しないでください。
- 必要に応じて適切な保護手袋・保護衣・保護眼鏡・保護面を着用してください。
- 取扱後はよく手を洗ってください。
- 使用中に気分が悪くなった場合は使用を中止し、空気の良い場所で安静にしてください。
- 蒸気を多量に吸引したり、誤って飲み込んだ場合は、速やかに医師の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した際は多量の水と石鹸で洗い、かゆみや炎症が残った場合は医師の診断を受けてください。
- 目に入った場合、速やかに流水で15分以上洗ってから医師の診断を受けてください。またコンタクトレンズ着用の場合は、外して洗ってから医師の診断を受けてください。
- 作業衣についた場合、汚染された衣類は脱ぎ、再使用する場合はその前に洗濯をしてください。
- 液がこぼれた場合、乾いた砂やウエスなどで拭き取り回収してください。
- 開封した接着剤は速やかに使い切ってください。
- 残った接着剤・容器は、許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処分を委託してください。

- 水に濡れた場合は、すぐに拭き取ってください。時間が経つと、シミや変色、ヒビ割れの原因となります。
- 各種薬品・コーヒーマシンの油・インクなどをこぼした際は、すぐに拭き取ってください。長時間放置しておくとしみや変色、腐食の原因となります。
- ファンヒーターなどの暖房機を置く場合、フローリングに熱が直接当たらないようにしてください。
- ホットカーペットを使用する際、フローリングとの間に敷物を置くなどしてフロアに伝わる熱をやわらげてください。
- 床暖房を入れたフローリングに家具などの重量物を置くのはお避けください。熱でひずみやくずれが生じるおそれがあります。
- 床暖房を入れた場合、フローリングにカーペットを敷くのはお避けください。熱がこもって床面が傷むおそれがあります。また、ホットカーペットやこたつなどの併用もお避けください。
- 床暖房中、フローリングに長時間接していますと低温やけどとなるおそれがあります。
- 床暖房のフローリングに釘などを打ち込むのはお避けください。温水パイプが破損し、水漏れや電気がショートして火災が発生するおそれがあります。
- 床暖房中、フローリングの上にスプレー缶やライターなどを置くのはお避けください。熱でスプレー缶内の圧力が上がり、破裂するおそれがあります。
- 床暖房中、衣類を直接フローリングの上にのせて乾燥させるなど、暖房以外の目的でのご使用はお避けください。

日常のお手入れ

- 日頃は乾いた雑巾で乾拭きをしてください。濡れ雑巾を使用する場合は固くしぼり、使用後に乾拭きをしてください。
- ワックスは不要ですが、ご使用の際は、フローリングが十分に乾燥していることを確認してからワックスを塗ってください。
- 化学雑巾のご使用はお避けください。フローリングの変色などの原因になります。
- ワックスがけの際は換気を行ってください。湿気がこもり、ムラなどの原因になります。

施工上のご注意

- 各接着剤指定の工具を使用してください。
- 下地の不陸・段差は必ず補修してください。接着剤での不陸調整は行わないでください。
- 床材によっては接着しにくいものもありますので、試験した上でご使用ください。
- 上澄み液が分離している場合は、よく攪拌してください。
- 所定の塗布量で、均一になるように塗布してください。
- オープンタイム・貼り付け可能時間は接着剤の種類・施工環境（温度・湿度など）によって変わります。一般的に高温時・湿度が低い時・風通しのよい場合・吸水性のよい下地の場合はオープンタイム・貼り付け可能時間は短くなります。特に冬場の低温時にはオープンタイム・貼り付け可能時間は極端に長くなり、接着不具合にもつながります。このような際は、ジェットヒーターなどで現場温度を確保する対策が必要です。
- 床材貼り付け後は十分に圧着してください。圧着不足は、膨れ・反り・突き上げはがれなどの原因となります。
- 施工後は接着剤が十分硬化するまでは通行を制限し、直射日光や冷暖房などによる急激な温度変化や、重量物や椅子のキャスターなどの車輪によるしごきは避けてください。
- 接着剤が完全に硬化するまでは、表面洗浄・ワックス塗布など水の使用を避けてください。

ゴム系ラテックス形・アクリル樹脂系エマルジョン形接着剤について

- 耐湿型の接着剤ではありません。水分率の高い下地や常に水を使用するような場所には使用できません。
- 低温時（10℃以下）では硬化が遅れ、完全硬化までには6～7日要しますのでご注意ください。
- 他に付着した場合は、きれいな水で直ちに拭き取ってください。

溶剤形接着剤について

- 溶剤形接着剤は、労働安全衛生法・消防法によって取扱い方法・保管方法に制限があります。各種法令をご確認ください。
- 火気のあるところでは使用しないでください。
- 有機溶剤作業責任者立会いの下で使用してください。
- 室内の換気をよくし、換気に心掛けてください。
- 有機溶剤を多量に吸引すると、人体に影響を及ぼす場合があります。
- 下地に塗布した接着剤を容器に戻さないでください。
- 他に付着した場合はベントラうすめ液などで直ちに拭き取ってください。
- 溶剤の揮発ガスなどにより床材に膨れが生じる可能性があり、適切な塗布量・適切なオープンタイムで施工し、貼り付け後はローラーなどで十分に圧着してガス抜きを行ってください。